

# 第23回 都市景観フォーラム 記録集

## ■はじめに:「谷戸の説明」

最勝寺 靖彦さん/TERA歴史景観研究室代表

## ■講演:「谷戸で始めた新しい生活・

景観をいかした空き家の有効活用」

比護 友一さん/有限会社 日栄建設・谷戸再生プロジェクト代表

## ■発表1:「谷戸ワクワク探検マップ」

デイビス 美也那さん/横浜市立大学国際総合科学部

## ■発表2:「谷戸を“体験”する」

永田 麻果さん/横浜市立大学国際総合科学部

## ■パネルディスカッション:

コーディネーター:

最勝寺 靖彦さん/TERA歴史景観研究室代表

パネリスト:

大川 謙一さん/よこすか都市景観協議会代表幹事

比護 友一さん/有限会社 日栄建設・谷戸再生プロジェクト代表

太田 春菜さん/横浜市立大学国際総合科学部

主催:よこすか都市景観協議会

問合せ先:事務局(横須賀市都市部まちなみ景観課内)TEL 046-822-8377



## 第23回都市景観フォーラム記録集

### ■フォーラム概要

名 称 : 第23回都市景観フォーラム  
テーマ : 横須賀らしいまちづくり～谷戸を歩く～  
日 時 : 平成30年2月17日(日) 13時開場 13時30分開演  
会 場 : ヴェルクよこすか 6Fホール  
参加者 : 94名

### ■プログラム

#### 13:30 開会

主催者挨拶：小泉 厚 / よこすか都市景観協議会会長  
共催者挨拶：上地 克明 / 横須賀市長

#### 13:40 はじめに

説明者：最勝寺 靖彦さん

#### 13:50 講演

テーマ：谷戸で始めた新しい生活・  
景観をいかした空き家の有効活用  
比護 友一さん / 有限会社 日栄建設・  
谷戸再生プロジェクト代表



比護 友一さん

#### 14:40 発表

テーマ：景観まちあるき参加者による発表  
発表者：横浜市立大学国際総合科学部学生  
・デイビス 美也那さん 2年  
・永田 麻果さん 4年

#### 15:10 休憩

#### 15:30 パネルディスカッション

コーディネーター  
最勝寺 靖彦さん / T E R A 歴史景観研究室代表

#### パネリスト

- ・大川 謙一さん / よこすか都市景観協議会代表幹事
- ・比護 友一さん / 講演者
- ・太田 春菜さん / 横浜市立大学国際総合科学部学生 3年



最勝寺 靖彦さん

#### 質疑応答

#### 17:00 終了

・比護 友一さん / 講演者

※本書は、フォーラムの内容を記録としてまとめたもので、報告書の内容は事務局の文責で編集したものです。

■会場風景



■主催者挨拶



■共催者挨拶



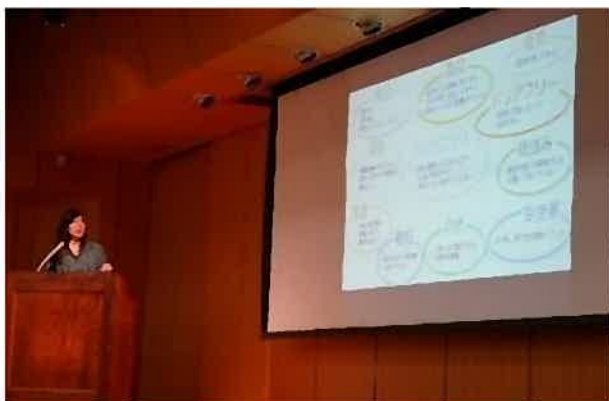
■はじめに



■公演



■発表



■パネルディスカッション



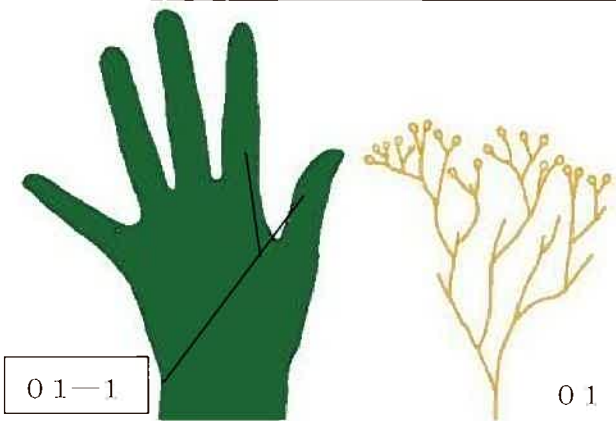


## はじめに

### 『谷戸の説明』

最勝寺靖彦さん(TERA歴史景観研究室代表)

○最勝寺氏 それではさっそく画像の方をお願いいたします。



手を見ると谷戸の姿が良くわかります。ここの土地は、土丹石といいます。これは、泥岩です。非常に脆いです。ですから、わずかな水で削られます。ですからこの手のように削られて、白いところが谷戸です。そして、緑の指の部分が尾根になります。それで、その先端の方に海があります。指の先端ですね。その間に町があります。みなさん、京急の電車に乗ってこられるとトンネルがいっぱいありますね。横切るからですね。つまり、トンネルの数だけ谷戸があるわけです。さて、谷戸があるとどういうことが起こるかという、夜になると山の方から山風が吹いてきます。そして、昼間になると海風が吹いてきます。山海と風が循環するわけです。そうするとその風に乗って何が来るとかという海から雲が来て雨をもたらします。その雨が木の栄養とか土の栄養を食ってまた海に戻ります。ですから、ここは豊かな海ができるわけです。同じように風に乗って豊かな町ができます。この街は、シンボルカラーが基本的に青か緑ということになります。皆さん、景観というと景観フォーラムですけども景色だと思いでしょけど、景色だけじゃなくてこのよう

に風の循環、水の循環を含めて景観だと思います。そんな話をこれからしていきたいと思います。

もう一つ、この辺ですね。この辺(01-1)に道があるわけですね。こっちの緑が谷戸でこの間が谷ですね。そういう風に理解していただくとまず楽かなと思います。隣の絵は枝のように書いてあります。枝がだんだん細くなっていきますよね。これ谷戸の坂ですけど、この辺の話について、後で坂道のところで詳しく話をいたします。

それでは次(02)お願いします。

谷戸を見るとまず谷戸の谷のところには谷道があります。ここは、土蔵造り風ですね。これは見世蔵と言います。お店ですね。



次(03)見てください。これは、建物から梁が出て出桁造りという建物しております。もっと建物によった写真はなかったかな。どこかということこらへん(03-1)にちよんちよんと梁がいっぱい出ています。梁があると商店の証です。ですから、谷道というのは、水みちなのですけど水商売っていうのかな。商店街が多いです。



もう一つ(04)行きましょう。

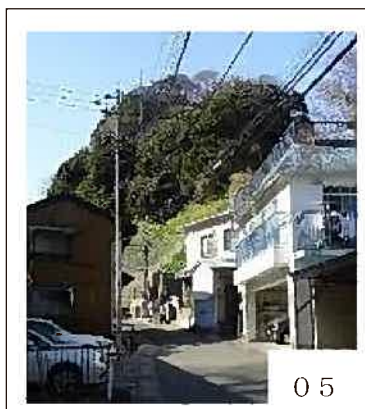
今度はね。今言った谷道に対して、屋根道ですね。



尾根には緑があります。この緑を大切にしてください。この緑がなくなると山が崩壊します。何故かというところごく水を含んでくれるからです。一気に流さないようにするからです。そのためにこの場所は救われています。大手企業がやるとここから開発しちゃうのです。自分の足元から崩してしまうということが起こるわけです。そういう意味では、この谷戸は良いですね。全部残っています。ですから、みなさん上の方見てください。尾根の方を見てください。緑があつていいなと思ってください。

じゃあ次(05)お願いします。

この尾根の谷戸の方に緑が見えますね。これは、谷の道ですけどこれは昔の商店



05

街です。その突き当りに山が見えますね。これは、何の木だかわかりますか。こういうのは、だいたい針閣係。ヒサジとかマテバシとかいう木があるのですが、ここは違うんですよ。タブノキなんです。どうしてかといいますと潮風に強いからです。ですから、緑の極相形、最終形がこのタブノキです。ですから三浦半島ってタブノキ多いでしょ。三浦半島のタブは景観のシンボルだと思います。ここもそういうのが見えるのが谷戸の特徴です。

次(06)行きましょうか。

ちょっと見えにくいですがね。これ尾根道ですね。坂道見て、尾根道見ました。さっき言ったようにタブノキですけど、時々ちょっと変わったものがあるんです。



06

それは何かというとクヌギがあるんですよ。クヌギってここではありえないんですよ。何故あったかというところは谷戸に人が住んだから。昭和3年ぐらいから住みだしています。鉄道の関係かなと思いますけども、そうすると薪が必要になります。ですから、薪に有意義なクヌギとかコナラを植えるようになってきて、「えー」と思いながら見ました。谷戸に人が住んだ証が実は尾根道歩いて分かるわけですね。ですから、ここは極相林にならなかったわけ

です。次(07)行きましょうか。次はね、谷道やって尾根道やって坂道行きましょう。坂道を見ていると不思議ですね。ちょっと曲線を描いています。幅が狭いですよ



07

ね。通りすがりがやっどです。階段の段々の勾配も段々全部違います。場所によってね。これはね、谷戸を守る約束事が隠されています。この話は、後ほどのパネディスカッションで詳しく話しますが、自然を壊さない道づくりなのですね。ですから、ここは安全だと思います。これは、谷戸の道の一つの特徴です。考えてください。山道だと思ってください。山道って広くないでしょ。そういう感じがここにもあります。

はい(08)、次お願いします。

その道すがら、これ見ていくとここは、海の街だなということがわかります。山の中だけど潮風が多



08

いのでしょうかね。ここにあるのは、見えにくいですがいっぱい見えているやつがオニヤブソテツ。その下の



方に生えているのがアシタバです。他にもいっぱいあるんですけど、このように海の匂いがする植物が多いですね。そんなこと探すのも谷戸歩きの一つの特徴かも知れません。



次(09)行ってください。

石垣がすごいですけど、これはブラフ積みという積み方で白いものが付いていますね。これは、コケですね。ウメノキゴケといます。これは、空気が綺麗な証です。空気が綺麗でなければこのコケは育たないんですね。そういう風に見てください。その他に在来種が多いです。帰化植物が少ないです。車が入ってこないから、土をあまりいじくってないおかげなんですね。これは、人にとっても良いおかげです。だから植物見てください。在来種で他の帰化植物が少なくて良い環境だと思ってください。

次(10)が浦賀道ですね。浦賀道有名だからお話しておきましょう。僕は、浦賀道はすごいロマンがあると思います。どんなロマンかというところ



ういうロマンです。元々、浦賀道ですから浦賀奉行に行くわけですね。だから近世の道です。けど僕は近世だけじゃないと思うんです。中世の道もここはあったんじゃないかと思います。何故かというとな頼朝が攻められた時どこに逃げますか。先端でしょ。そうすると海渡って千葉に逃げます。その逃げる道だったんじゃないかと思います。生命線だと思います。たぶんこの辺に頼朝を支える防衛線があったと思います。

今でいう甲州街道が江戸を徳川幕府が逃げる道です。親藩ばかりおいていきます。たぶんそんな人たちがいたのかなと思います。さらに、今は中世の話をしましたけども古代の話もしましょう。日本武尊。これは、走水で遭難するんですね。それで、お姫様は身投げして助けてくれるんですけど、そうするとこの方も浦賀道を歩いたわけですね。だからここは、古代の道のロマンもあるんですね。あるいは、さっき言ったマテバシの話をしましたけど、ドングリが多いですね。ドングリが多いということは、縄文の道かも知れない。この道には、すごく色々な歴史の深層があるんですね。こんな色々な要素をたたえたのが谷戸の姿だと、概略をもっていれば良いと思います。私からの概略は、これで終わらせていただきます。(拍手)

## 講演

### 『谷戸で始めた新しい生活・景観をいかした 空き家の有効活用』

比護友一さん

(有限会社 日栄建設・谷戸再生プロジェクト代表)

○比護氏

みなさん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました 谷戸再生プロジェクト「みんなで作る山の家」代表の比護友一と申します。本日は、お休みにもかかわらず、たくさんの方にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。第23回という歴史ある都市景観フォーラムで話すことができるという大変光栄なことなのですが、なにせこういった講演が初めてなもので、とても緊張をしています。不慣れな点多いと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

先ほどもご紹介がありましたけれども、私の仕事は横須賀で祖父の代から建設業を営んで、85年。横須賀市三春町で有限会社日栄建設という代表取締役をや



っております。私で4代目になります。私自身がこのフォーラムを主催している団体で「よこすか都市景観協議会」にも所属していますし、また、今回のポスターでは一般社団法人神奈川県建築士会で私は紹介されていますが、その他に一般社団法人神奈川県建築士事務所協会横須賀支部、建設業関連団体協議会の一般社団法人横須賀建設業協会、横須賀商工会議所、もう卒業してしまいましたが公益社団法人横須賀青年会議所などにも所属している人間です。

なぜこの活動を考えるようになったのか。

約4年前、私はこの景観協議会メンバーで色々な話をしてきた時に「人口減少」や「空き家問題」、「高齢化問題」、「地域コミュニティの崩壊」などの様々な問題に対して、この協議会メンバーで何とかできないか、何かできないかということで、机上の空論ではなく、実際に形にしてみたい。この生まれ育った横須賀のために何か出来ないか？という思いで約2年前にこの「谷戸再生プロジェクト」という名前で活動を始めました。

簡単に谷戸再生プロジェクトの説明をさせていただきます。まずは、谷戸再生プロジェクトの目的になります。読み上げます。横須賀市の人口減少が問題視されている現在、一番の影響を受けている空き家の増加はさらに深刻である。特に狭い道路で車の入らない階段が多い谷戸地区については人も住まないまま手付かずの空き家が多く、持ち主も周辺住民も迷惑な状況に陥っている。そこで我々、建築士と建設業者が谷戸の地域に注目して、実際に空き家を利用し、谷戸に入り生活してみる。そこに人が居たという歴史は変えられなく、その歴史を周辺の人たちと共に感じながら、横須賀の魅力が谷戸から再発信できる場所としたいということで、現在も活動しております。

テーマです。「谷戸から生まれる新たな景観街づく

り～谷戸に住んで感じる人とのコミュニティと生活～」というのをテーマにしています。

現在は主に建築士を中心とした7名のメンバーで活動をしています。何故、建築士にしたのかと言いますと、この都市景観協議会は、会長も建築士でおられるように建築士が多く、建築士として、仕事として建物を建てるために図面を書くだけでよいのか。建てた責任があるなら、街を守る責任もあるのではないかと。震災の時に耐震工事、防災工事も大事だがもっとなにかできることがないのかという思いで動き始めました。

メンバーには、図面を書く建築士事務所に勤めている方や私のような工務店で家を建てている方、市役所の方も在籍しています。その中で、ちゃんと規約を作って、それに基づいて月々の会費を頂いて活動をしています。

今はこの汐入5丁目の山の上のかなり傷んだ空き家を借りてリノベーション、リフォームをしながら月1回の定例会、町内会にも入りお祭りなどの地域イベントへの参加、独自に企画した地域の方々との交流を目的としたイベントの企画などを行っています。

一昨年の11月に賃貸契約をして家の名前は「みんなで作る山の家」として活動をしています。「みんなで作る山の家」という名前は海の家があるなら山の家もあっても良いのではないかとということと、「みんなで作る」にはメンバー以外にも多くの方々に参加をして欲しいという意味を込めて名付けています。拠点を作ることにより以前は、会議室でやっていた打ち合わせも現在ではこのように(11)山の家で会議が出来るようになりました。

この山の家が活動が、この現代日本の課題に対応し



ているのか、そんなことを聞かれても今の時点では、積極的な回答はできません。でもこの活動を通じて気付いたことはあります。

ちなみにこの写真(1 1)は、今日の「おしゃべり」のコーディネーター、最勝寺先生が谷戸歩きの際に、遊びに来てくれた時の写真です。去年の初めぐらいの写真だと思います。去年の都市景観フォーラムでもこの山の家を紹介していただきました。

これから、次に述べる大きな3つのことをお伝えしたいと思います。

1点目は、本日のイベントの大テーマは、「都市景観フォーラム」ですので、景観のことについて触れたいと思います。

2点目は、地域コミュニティについてです。山の家を改修しながら地域の方々と交流をしてきた私たちの活動のお話をさせていただければと思います。

最後、3点目になりますが 何故、我々は谷戸にある空き家で活動しているのか。平地にも空き家はある中、何故このような活動をしてきたかをお話させていただければと思います。



では、1点目の景観についてのお話をさせていただきます。

皆さんは、長年放置された空き家に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。倒壊しそうで危ないとか景観が損なわれて見えて不快に感じるなどではないでしょうか。ちなみにこの写真(1 2)は、横須賀

市で解体をした東浦賀の写真になります。

そんな全国的に問題となっている放置空き家の対応をするため、平成27年に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されました。

「空き家等対策の推進に関する特別措置法」では、適切な管理が行われていない空き等を各自治体が「特定空き家」に指定することができることが記されています。

「特定空き家」に指定される空き家とは具体的にどういった家なのでしょうか。

「特定空き家」とは、4つ項目がありまして

- ①倒壊等著しく保安上危険となる恐れのある状態。
- ②著しく衛生上有害となるおそれのある状態。
- ③適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態。
- ④その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態。

この①～④のいずれか1つでも該当する空き家は、特定空き家に指定されてしまう恐れがあります。

さて、「特定空き家」に指定された家はどのようなのでしょうか。

実は、固定資産税が大幅に高くなってしまいます。

正確に言うと、住宅が建っている家に対する固定資産税は「住宅用地の特例」が適用されているため、空き地にしてしまうより税金が安く計算されています。

そのため、空き地にせずそのまま放置してしまう家主が多いのですが、「特定空き家」に指定された空き家は、「住宅用地の特例」を受けることができなくなってしまいます。

このように景観の視点からも家主にとって不利益になってしまう問題が起こってしまいます。

全国の空き家所有者は、空き家の適切な管理や活用方法について考えなくてはいけなくなってきました。



私達もそれから横須賀市の空き家の問題をいろいろ検討しはじめてみました。

### 空き家の問題をいろいろと検討していると・・・

- ・放置されている手入れの行き届かない空き家の多くは車が入らない
- ・谷戸、浦賀道などの研究をしている人に多く会う
- ・皆(仲間)で話せる拠点づくりがしたい
- ・拠点づくりをするなら楽しみたい(隠れ家、秘密基地)

1 3

1つ目として放置されている手入れの行き届かない空き家の多くは車が入らないような場所、まさに谷戸です。車の入らない谷戸に建つ建物は新しい家は少なく、古い家の方が多いです。車が通れない道沿いにある家が多く、建築コストが高いため建て替えが困難であることなどが考えられます。ただ、古いといっても手を入れていないといったことではなく、ちゃんと屋根や外壁のメンテナンスをするお宅が多いです。

2番目として、谷戸や浦賀道などの研究をしている人に会うようになりました。この活動を通して、一般の方はもちろん、若い世代、特に大学生とはよく話すようになりました。

3番目。皆と話す拠点づくりをしたい。それに続きますが、拠点づくりをするのであれば楽しんでやりたい。4番目に隠れ家とか秘密基地とか書いてありますがそういった意味合いの使い方をしても面白いのではないかなということ、こういう流れになっております。

私は、空き家を所有していたわけではありませんが、建築関係の仕事をしている一人としても、もともと古い建物に興味を持っていました。建て替えることができないから活用することが難しいかということとそんなことありません。少し手を加えるだけで色々な活用が考えられ、多くの建物はまだまだ使える建物だと思います。

私たちが活動拠点としている山の家も借りた当初は、放置空家であったため、床は腐り、壁は剥がれ、天井からは雨漏りしていました。

しかし、壁の左官工事や床の張り替えなどを行った結果、宿泊ができるまでになりました。

ここから山の家の現況、改修工事、リフォーム工事の話をしたと思います。

こちら玄関が二

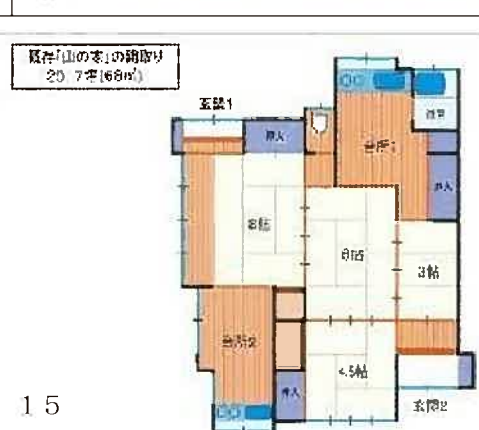
つりますが、表玄関ですけども、こちらの建具はほとんど木製の建具を使っております。間取りは、こんな感じ(15)で、20.7坪の平屋で台所も玄関も2か所あるので、2世帯住宅ですね。お風呂とトイレは一か所しかなかったのですが、台所も2つあるような家でした。

これが、裏の玄関になります。この建物唯一のアルミサッシが着いている場所です。ボロボロになったため、前のオーナーが付け替えたと言っていました。

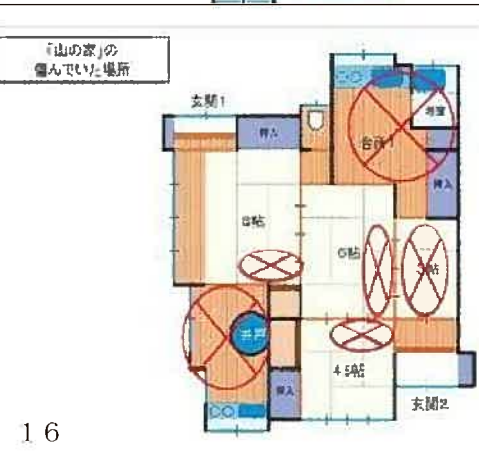
この建物も7、8年ずっと使っていなかったということで、傷んでいた箇所はこれぐらい(16)ありまし



1 4



1 5



1 6



た。だいたい×印が着いたところが、床が抜けているところですよ。

まず屋根に関してはサビサビな状況で特定空家に指定寸前じゃないかなというほど、傷んでいます。

穴もこんな風に(17)空いています。



今は、

屋根の葺き替えまで行うお金がまだないので、現在ではシーリングという防水材で埋めて何とか凌いでいますが、台風クラスの大きな雨が降ると中に水が入ってきてしまう状況です。

その下の状況(18)です。天井は抜けて、先ほどの穴に入ってくる水がこんな風に物入れの天井のベニヤ



も穴を空けている状況でした。

こちら(19)が、4.5畳の床になります。畳がもうブヨブヨしていたので、畳を剥がすと下の板が朽ちていて人が乗ると危ない状況でした。もちろん、ほとんどの畳下の床はボロボロに穴が空いていた。そんな状況でした。

こちら(20)が、台所の床です。こちらもグスグス

になっていて、人が入るのも危ない状況でした。

それで、お気付きの方はいらっしゃると思いますが、台所



2に井戸と書いてあるのですがこちらの建物は、入った時は普通だなと思ったのですが、床がフカフカするなと思って開けてみたら、穴が出てきたんですね。その穴をよく見てみると井戸。建物の中から井戸が出てきて、またあとで別のところでお話させていただきましても水がけっこう綺麗で、1mほど下がったところに水があつて、この地区はほとんど各家庭に1個ずつ井戸があるような状況で、海拔でいうとたぶん一番高い所で、40mぐらいですかね。うちの建物も、豊富な水が湧いている場所です。

まず初めにこのフカフカした床を直そうということで、ほとんどフローリングを貼ろうという計画をしました。

こちら(21)は、工場の状況です。

8畳の状況なのですが、ボロボロにダメになっているところを全部撤去しまして、このように(22)大引きを補修しています。この建物は、山の上ということで土



台関係は、普通の材料を使っているのですが、こういった大引き関係は、たぶん前の建物を壊した時に出てきた柱などを利用して使っています。こういった束なんか

も古い解体したものを使っている状況でした。

このように大引きを綺麗に直しまして、この板(23)を張っている状況です。



この床板ですけれども一番右側が今回使った床板です。床板は普通ですと15mmのやつを使いますが、今回は厚み30mmの杉板を使いました。こちらは、徳島県産の杉板で、厚みが30mmあるため、根太と言って、こちら大引きの間に本当だったら根太を流して貼りますが、根太が無くても貼れる状況でした。

やはり一番大変なのは、ここに上げるための荷揚げですね。僕が主にやるのですが、階段が200段ちょっとあるので、1日、10往復すると次の日歩けなくなっちゃいます。だから、だいたい7往復ぐらいで止めようかなと思っています。

こちらの板ですね、無塗装品で本物の板で厚みがあるのでとても暖かく感じます。ここの改修工事本来であれば自分らの手でやりたかったのですが、床を貼ったことある方はいらっしゃると思うのですが、なかなか最初と最後って難しいんですね。ちょっとやっけていてもできないところがあって、床張りだけはプロの人に何日か入って、工事をしました。

床はこんな風(24)に8畳は貼ることができました。机を置くと



こんな風な会議室になります。

続きまして、次は6畳ですね。6畳にも工事が入りまして、次は4畳半の工事。もうあまり板も大丈夫なところは多少下地材を入れて、張っています。

4畳半張って、次は3畳ですね。3畳も床張りをしました。

床張りが完成した状況(25)です。床を張っただけでだいぶ雰囲気は変わりました。



床の次は、トイレの工事を行いました。トイレは、もともと古い便器が着いていて、角にタンクがあるタイプだったのですが、ウォシュレットが付いたらいいなということで、

簡単にウォシュレットを付けただけにしています。配管は自分がやったので、綺麗ではな



いのですが、使えればいかなという状況で使用しています。これ、私が仕事だったらこんな配管はNGなのですが、私がやったということで。ウォシュレットも最近では、バックになっているので素人でも配管できるようになっているので、そんなに高い機種じゃないので、ぜひ挑戦していただければと思います。

次は、8畳と6畳の壁のリフォームをしました。

まず、壁のリフォームに関しては、2日間キャンプ形式で行いました。

1日目にだいたいの普通の壁をこのように(27)濡らして剥がして乾か





して、この珪藻リフォームという材料をみんなで練って、次の日に養生してメンバーが塗っています。

こんな感じ(28)で昼間から酒を飲みながら楽しく作業をすること



ことができました。なかなか作業といっても仕事とやっ  
てしまうとみんな苦になってしましますが、みんなで  
遊びながらやると仕事も楽しくできるのが良かったと  
思います。

これは(29)8畳のリフォーム前ですが、床と壁を直すとこんなに綺麗になっています。



台所の方もお金をかけたくないということで、簡単にこんな



感じ(30)で仕上げました。

あとでまた金額の方はお話をさせていただくのですが、シンクに関してはガーデニング用のシンクなのでそんなに高くないですね。木を切りぬいてはめ込んだだけです。ただ、天板は防水性がないとダメなので、ランバ



一合板という木にオイルステインを塗って、蜜蝋ワックスという防水性のあるワックスを塗り、防水仕様にして、使っております。

夏はどうしても暑いので、エアコンも付けました。

扇風機も付けて、暑さ対策を行って、冬はストーブを入れればいだけなので、ストーブを焚きます。ちなみにこのストーブは近所の人からの貰い物です。山の上ですと伽藍堂の家を見て近所の人がいらないものをくれるんですね。くれるというか「なんか必要なものがあつたら言って」とすごく気軽に声をかけてくれて、いらないものでもみんなで使い回しをすればすごく便利。「くれない」と聞くと「あるよ」というとすぐくれるのが山の家の良い近所付き合いなのかなと思います。ちなみに照明器具も近所の人 gave くれました。

今では簡単な会議までできるようになっておりますので、メンバーとか

床材	考慮	帖	22	¥8,500	¥187,000
床張り	大工さん	人	5	¥20,000	¥100,000
畳処分	無し				¥0
ウォシュレット	船分共	台	1	¥15,000	¥15,000
壁紙官材	メンバー協賛品				¥0
各所直し台作費	シンク、天板	式	1	¥18,000	¥18,000
エアコン	メンバー協賛品				¥0
エアコン取付費		式	1	¥20,000	¥20,000
ストーブ購入		台	1	¥20,000	¥20,000
				合計	¥360,000

で勉強会とかも現在ではやっております。

これが、現在かかったリフォーム代金になっております。

床材が、だいたい22畳で187,000円。大工さんが5人入ってくれました。畳の処分は下まで降ろしたんですけど、0円。何故0円かというとな藁床の畳は、利用価値があるんですね。特に畑をやっている方は、藁床を作物の養生に使えるらしくて、その畑やっている人に畳は上げました。そして、ウォシュレット、左官壁。だいたい合計すると36万円ぐらいのリフォーム代金で済んでいる状況です。ただ、自分らでやった荷揚げと



かの人件費は一切入っていないのでご了承くださいと思います。

結果的に、私たちの活動は特定空き家に指定されたかもしれない空き家を1件なくすことができたのかなと思います。たった1件と思うかもしれませんが、空き家が1件でもあるとその周囲の住民の生活環境にも悪影響を及ぼし、更なる空き家が増えてしまうと考えると大きな1件だったと言えないでしょうか。

実際に近所の方からは夜、空き家に照明が入るだけで「ほっとす



る」と言われました。

続いて、「地域コミュニティについて」の話をさせて頂ければと思います。

先ほどもお伝えした私たちの活動は、地域住民の方から見るととても奇異な目で、変な目で見られました。当然だと思います。まずは、地域住民の方々に理解を得る必要がありました。そのために町内会役員会で挨拶をさせて頂いて、町内会イベントにも設営から参加しました。

まずは、6月に行わ



れた祭りの準備から手伝うことを行いました。1週間前に看板付けをして、御仮屋とってお神輿を入れるところの設営とか、テントを組んだりなどの設営をしました。もちろん、お祭りにも参加しております。

夕入なので、夜のお神輿(35)の経験をしました。



次に日曜日には、昼間お神輿を担ぎました。

メンバーみんなで周囲のお祭りに参加しました。

これ(36)、山の家なのですがこの辺は谷戸の中



でも小さな子供神輿を担いで山を回るわけですね。お神輿が来ればみなさんお賽銭みたいなものを入れたり、山の家にも通って、色んなところを練り歩いていました。

お祭りはこんな感じで賑やかに行われております。

お祭りだけではなく、8月20日に行われた「ふれあい納涼大会」(37)というのも設営から参加しました。

町内会に唯一ある公園の中で、地域にあるお祭りみたいなものですけど、そう



いったのにも設営から参加をして、楽しい時間を過ごしました。

これは(38)、先日の



もちつき大会ですね。こちら朝の準備から参加しまし



て、こんな感じでみんなと一緒にワイワイやることができました。

これは(39)、食事会の風景になります。

去年の5月20日ですね。この家のだいたい改修工事が終わった時点で、町内会の役員さんと近所の方を呼んで、山の家で食事会を行いました。その時に、山の家

の建物の間取りを活かして、何かイベントができないかと町内会長さんを初め、役員の方と相談して、9月23日に山の家で「山の上寄席」、要するに落語会です



ね。地域の人を呼んで落語会を開催いたしました。間取りはこんな感じ(41)で、約50名を落語会に呼ぶことができました。今の建物だ



とこういう間取り、建具を外しただけで、こんなに人は入れないと思いますので、昔ながらの間



取りだからこそ、このように人がたくさん呼べたのだ

とっております。

みなさんで設営をして、この日は、神奈川県立保健福祉大学の食育サークルのシーラボのみなさん、7名が来てくれまして、さつまいもとマイタケの味噌汁とトマトの胡麻和えを試食からレシピ本まで対応していただきました。

山の上寄席をみんなで見て、県立福祉大学の生徒がレシピの説明をして、みんなで食事会を行いました。

これが山の家で地域交流を目的としたイベントの一例です。

来月の3月25日には、この山の家を利用して、ジャズライブを行おうと思っています。出演者は、自分の身内を宣伝するのも変ですけど、息子を出して行おうかなと思っています。興味がある方はご参加いただければと思っています。

今では、地域の方とコミュニケーションも図れ、階段などで挨拶を交わす仲になりました。

私の名前も憶えていただけるまでになり、自分自身もこの地域活動が楽しいと感じるまでになりました。

### 3. なぜこの場所を選んだのか

43



最後、3点目のお話になります。

山の家は、汐入5丁目二区にある通称「稲荷谷戸」と呼ばれている谷戸に建っております。

谷戸とは、二方、三方が山地に囲まれた場所を指し、谷合から山に向かっていくにつれ、道幅が狭くなり、通路は階段となっている地域が多いです。

当然、車など家に横付けできるわけもなく、若者はそういった家を嫌う傾向があるため住もうとせず、ま



た高齢の方には厳しい場所であるため、家を移り住む人が多く、結果的に空き家になってしまうのが多いのかなと私も思っていました。

しかし、谷戸だから空き家が多いと結論付けてしまっているのかというところというわけでもないようです。

横須賀市では、平成23年に谷戸地域等実態調査を行いました。市内に49箇所ある谷戸地域内に7,144棟ある建物の内562棟が空き家となっており、空き家率は7.9%でした。

空き家が1棟もない谷戸地域もあれば、空き家率が18.5%に達する地域もあり、谷戸地域ごとに、空き家率は大きく異なるという結果が出ました。

横須賀市内全域で見ると市内の戸建て空き家率は、平成20年時点で7.5%という結果でしたが、横須賀市内全域の戸建て空き家率と比べてみたとき、谷戸地域の空き家率の方が平均より高い数値ではあるものの、谷戸だから特別空き家が多いわけではないことがわかります。

しかし、私たちが選んだ場所は違います。駅から徒歩15分圏内という好条件にありながら、先ほどの谷戸地域実態調査で空き家率18.5%と谷戸地域の中でも最も高い空き家率の結果が出てしまった地域になります。

谷戸地域の課題として「横須賀市土地利用基本条例に基づく土地利用の調整に関する指針」において、「谷戸や車の入らない高台の地域ごとの特性を踏まえ、居住者の生活防衛・居住の継続の観点や谷戸等の持つ魅力を活かした再活用の観点から、谷戸等の生活環境や、自然環境の改善を目指し、総合的な施策を検討し、改善を図るべきである」としています。

こうした谷戸の課題がある中、せっかく活動するなら一番空き家率が高く、条件が悪い場所の物件でチャレンジしてみたいと感じるようになりました。

メンバーそれぞれの思いがありましたが、「とにかく

くやってみよう！」という思いがあり、始めました。

まず、最初に知り合いを通じて、この土地に空き家を持っているオーナーと出会いました。

オーナーに活動趣旨を説明し、条件を提示してみたところ、了承していただいたため、その空き家を「みんなでつくる山の家」と命名し、平成28年5月に活動を始めることになりました。

私たちの活動は、あえて谷戸でやるようなことではありません。市街地にも空き家が増えていると聞いております。

もっと便の良い町中の空き家を有効活用した方が私たちよりよっぽど活動がしやすく、面白い活動ができるんじゃないかとも思うので、少しでも興味がある方、やってみようと思って頂けた方は身近なところでチャレンジしてみてください。

仲間と過ごす時間はすごく楽しいです。

こちらが、汐入駅から山の家までの地図(44)になります。約徒歩13分ですね。

こちら(45)が、階段の始まる場所になります。ここからずっと歩いていきますと横に側溝があるのですが、ここをオートバイで走れるようになっています。

まあアクロバットみたいな感じで行かないとダメなのですけど、ずっと行くと私の家があります。





続いて、  
逸見です。  
逸見からは  
オートバイ  
で走れませ  
ん。ただ、



逸見の裏のところから入っていただいて、ずっと歩いていきますとこのような細い小道(46)があります。この小道は、先ほども最初時先生が紹介されましたが、尾根道と言ってすごく自然豊かな道となっております、こんな道がずっと続きます。だいたい逸見駅から徒歩7分で山の家に着くことができます。

また、横須賀駅からも徒歩10分ぐらいで歩けますので、立地的にはすごく良いのですが、なぜか空き家が多いということで、こんなもったいない地域はないのではないかということもあって、活動しています。

#### まとめ

- ・特定空き家予備軍であった空き家を活用したことで景観を保つことに繋がった。(どんどんと空き家&空地の情報が入ってくる。)
- ・町内会の活動に参加するだけでなく、自分たちでも地域でイベントを開催した。また、地域住民の生活の手伝いも行った。
- ・同じような活動をしている方々とのネットワークができた。若い世代との交流で新しい住環境の提案ができる。

47

最後、まとめになります。

まとめの1番ですね。

特定空き家予備軍であった空き屋を活用したことで景観を保つことに繋がった。どんどんと空き家、空地の情報が入ってきます。何万件あるたった一軒かもしれませんが、私たちの活動がマスコミなどに取り上げられました。それから、私のところに色々な情報が入って来ます。私の本業である家の保存、メンテナンス方法なども含めて、このよこすか都市景観協議会には家、土地に関する様々な業種、プロ集団がいますので、と

ても頼もしく、相談しやすいのと色々な意見をいただけるのが今はとても良いと思っています。

2番目、町内会の活動に参加するだけでなく、自分たちでも地域でイベントを開催した。また地域住民の生活の手伝いも行っております。今まで、稲荷谷戸には住みながら事業を起こそうとした人がいたんですけども、あまり長続きしないというのが現状だったみたいです。

私たちは、あまり無理しないで、時にはちょっと無理して、この地域の人と楽しみながら末永く活動を行っていきたくと思っています。

3番目になります。同じような活動をしている方々とのネットワークが出来た。また、若い世代との交流で新しい住環境の提案ができる。

現在、ネットワークというとSNS等で情報交換がすごく簡単になっています。谷戸とか空き家に興味がある人からすぐ連絡がきたりとか、そんな状況なのでそういった利点を生かして同じ趣味の人たちが集まり始めています。また、そういった方々のネットワーク、情報交換というのは、すごく楽しいので、今後もあの場を利用して続けていけたらと思っています。

それと、今回色々な大学生が卒論とかで、住環境とかの勉強をしている学生さんとかが私のところに連絡をくれて、山の家に50~60人ぐらいかな。会ってお話をさせて頂きました。

先ほどの写真見て、僕らの世代だとたぶんおじいさんぐらいの代の家なのかなと思います。少し汚いなという感じを受けますが、若い人たちというのは、たぶんおじいさんおばあさんの家ももっと綺麗なのでしょうね。ですから、入った瞬間にあの空間がまったく新しい空間だと感じるらしくて、興味をもってきてくれます。そういったのも、若い世代に新しい住環境提案できるということで、今後も続けていけたらと思って

おります。

私の話は以上となります。不慣れで本当に申し訳ありませんでした。最後になります。

こんな私に付き合ってくれた仲間、山の家まで来てくれた方々、そして私の話を最後まで聞いてくれた会場の皆様に感謝を申し上げて終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

### 発表 1

#### 『谷戸ワクワク探検マップ』

ダイビス美也那さん(横浜市立大学国際総合科学部)



横浜市立大学国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース2年1班代表ダイビス美也那です。

出身は横須賀市に近い横浜市金沢区というところで、生まれた時からずっと横浜に住んでいます。小さいころから横須賀には家族とよく来ていて、高校も横須賀大津高校に通っていたので、よく知っているつもりです。この間のまちあるきでも横須賀の汐入駅周辺やドブ板通り、ヴェルニー公園なども高校生の時にお世話になったところで「懐かしいなあ」なんて思いながら歩いていました。

ほぼ知っているつもりになっていた横須賀でしたが、谷戸のような場所があるのは初めて知りました。

これから、谷戸に関して私たちのチームが感じたことから谷戸の将来に対しての提案を行っていきますが、その前に私個人から見た谷戸の感想を述べていきたい

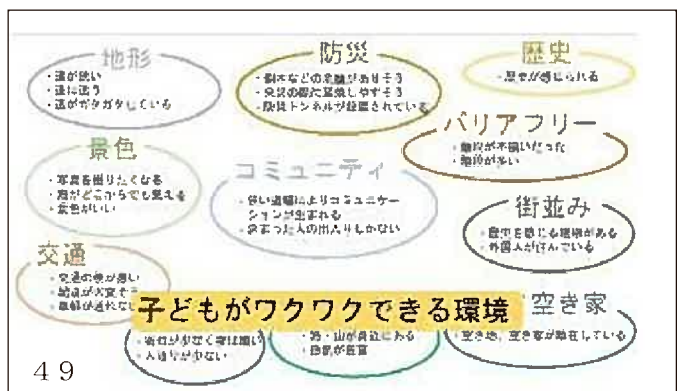
と思います。

初めて行った谷戸は率直な感想として、住むには不便が多いのではないかと感じました。今まで私は駅近くで、平坦な場所に住んできたので、駅まで階段がたくさんあり、山を登らないと家にたどり着けないようなところは住むことはかなり難しいのではないかと思います。しかし、一歩家を出ればたくさんの自然に囲まれていて、山も海も見えるような豊かな自然環境があるところはとても魅力的と感じます。

道幅が狭いところも多く、時には通りづらいような危ないところもありましたが、道幅が狭いということは逆に人とすれ違う時に、必ず挨拶が生まれるのだというお話をまちあるき講師の方から聞いて、それもまた魅力だなと感じました。

さて、本題に入っていこうと思います。

私たち1班では、KJ法を使って谷戸まちあるきを通して感じたことを出していきました。



出た意見(49)はこのような感じです。

海や山が身近にある、自然が豊富など自然に関することや写真を撮りたくなる風景や海がどこからでも見える、景色が良いなど景色に関する、歴史的な建物があったり、外国人が住んでいるなど歴史や町並みに関するプラスな意見もたくさんある中で、道が狭く、ガタガタしているところがあるなどの地形のことであ



ったり、階段が多く歩きづらいなど、バリアフリーに関するマイナスな意見も多く出ました。道が狭いからこそ、車両が通れず、配達などの不便が多そうなど交通に関することや空き家、空き地が散在している、そのため火災の際に延焼してしまいそうなど防災面、夜は街灯が少なく人通りも少ないために防犯面としても危ないのではないかという意見も出ています。また住民しか出入りしないため、コミュニティが狭くなってしまふのではという反面、それが逆に安全でコミュニケーションが生まれることにもつながるのではないかなど、様々なジャンルの意見が出ました。

その中でも私たちが注目した点は、自然、バリアフリー、空き家の3つです。そしてこの3つの良いところも悪いところも活かした「子どもたちがワクワクできる環境」という提案をしていきたいと思ひます。

具体的には谷戸の中に子どもが遊べる拠点を作り、そこにたどり着くまでの道のりを探検しているような環境にする、というものを考えています。

空き家が多くあることを受け、その空き家をリノベーションし「子どもログハウス」にし、子供達が放課後に自由に遊びに来るような環境を作り出すことを考えています。そして、その「子どもログハウス」に辿り着くまでの階段が多くて大変な道のりを「物知り探検ルート」として、花や昆虫など谷戸にある自然環境を知れるような看板を道に設置し、歩いているだけで楽しくなるような階段アートなどの工夫を凝らし、子どもたちが楽しんで谷戸に入ってくるような環境を作りたいと思ひます。また、谷戸における高齢化を受け、「子どもログハウス」では、高齢者との交流会なども行えたらと思ひています。谷戸に住んでいるからこそ知っている豆知識などを子どもたちが知る機会になると思ひます。また、ビデオゲームやiPhoneのゲームで遊ぶ子どもが多く、子どもの外遊びの減少が問題視さ

れている今、自然が多く、自然に囲まれている中で遊べるということを活かし、どんぐりコマや竹とんぼなどといったDIY遊具、自分で作るおもちゃなどを通して、それを高齢者に教えてもらう機会を設け、自然に触れ合いながら遊ぶといった機会を作ることによって子供の可能性を広げ、谷戸の魅力をお子たちに伝えることもできると考えました。こうして、谷戸に子どもが入ってくることで、谷戸に賑わいが生れることを目指します。

イメージとしては、こちら(50)です。



ログハウスのような子供たちが中で遊べる拠点を作り、外でもこのように自然に触れ合いながら遊べる場所を作ったり、階段アートは、参考の画像になりますが自分たちで絵を書いたりする中で、自分たちが書いたところに歩いたりとか自分たちの作った道という感覚が子どもたちに生まれると思ひます。



マップに関しては、仮でこのようなこと(51)を考えています。ログハウスの位置や看板などをまとめ、



マップを作成し、このマップを片手に谷戸に入ってくるような、谷戸を探検するようなマップを考えています。レベル別にルートを作り、宝探しのようなイベントもできると思います。

なぜ、私たちのチームが子どもに視点を当てたのか、と言いますと、単に「子どもが好きだから」というわけではなく、汐入周辺には小学校もあり、子どもが近くにいることが考えられるはずなのに私たちがまちあるきをしている際に、子どもを見かけなかったからです。谷戸に賑わいを取り戻すために大幅な開発をして外部から多くの人が入れるような高層マンションを建てるといった将来も考えられますが、私は谷戸本来の自然や住んでいる人たちの良さを守り続けていくことが大切だと思います。今ある形を生かした提案ができないかと考え、以上のような「子供たちがわくわくする環境」というものに至りました。

まとめとして、空き家を活用してログハウスや秘密基地のような子どもたちの遊び場の拠点を作り、そこにたどり着くまでの道などを階段アートやマップを作成することで、子どもがワクワクする環境というものが達成できると考えています。

最後に、高齢者が多くなっている谷戸地域に子どもが入ってくるということは谷戸に賑わいを生むことはもちろんのこと、子どもたちに小さいころから谷戸の良さを知ってもらうきっかけにもなると思います。谷戸本来の魅力を最大に活用し、子どもがワクワクし、楽しめる空間を創り出すことで賑わいや活気があふれる谷戸になり、より一層魅力ある谷戸になると考えました。

ご清聴ありがとうございました。

## 発表2

### 『谷戸を“体験”する』

永田麻果さん(横浜市立大学国際総合科学部)



2班の発表を始めたいと思います。横浜市立大学国際総合科学部まちづくりコースの永田あさみです。よろしくお願ひします。

私自身は、愛知県出身で横須賀にはあまり馴染みがありません。私たちのグループは「谷戸を体験する」というテーマで谷戸の新たな魅力作りを考えました。



はじめに私たち学生がまちあるきをした12月17日に歩いたルートをお伝えします。パワーポイント上(5 3)では谷戸地域のみをクローズアップして表示してあります。

まず赤い矢印の方から、汐入駅から出発してドブ板通り、ヴェルニー公園を通り、国道16号線沿いから谷戸に入りました。階段道を登ってすぐ、海上自衛隊と横須賀本港を上から眺めることが出来ました。

歴史ある浦賀道を歩き、坂道を下ると車道になっている谷道へとでました。京急線が通る線路近くの暗渠

を通り、防災トンネルを横切りました。火災時にはトンネルを通して隣の地域に避難することができ、消防車が通れるようになっており、谷戸ならではの防災対策だと思いました。

不揃いな階段道をあがって、木々がおおっている尾根道を通り、最終目的地である山の家に着き、そこでグループごとにワークショップを行いました。

ここからはワークショップでの話し合いを元に発表したいと思います。

まず、谷戸を歩いて気になったことです。

1つ目は車が通れない急な坂道、階段道、狭い道が多いことです。スロープを自転車やバイクで下っていく住民の方をまちあるき中に見かけましたが、かなり急な坂道をバイクで下っていくのは見ていた私たちがヒヤリとし、日頃から使っている方だからこそ出来る技だとおもいました。階段の段差も不揃いで大学生でも毎日上下するのは大変だと感じました。

また、地形や建物に合わせて複雑な道が敷かれており、分かりづらい道が多かったです。

外灯も少なく、夜はあたりが真っ暗になり、足元も見えづらかったので怪我や防犯面での心配があります。

防災面では道の特徴から逃げるのが遅くなり、古い木造建築が多いため、火災時の延焼や地震による崖崩れ、建物の倒壊の危険性がないか気になりました。

もちろんマイナスなところだけではなく、谷戸には多くの魅力もあると思います。

まずは自然が豊かで高台のため風通しもよく、空気が澄んでいるところです。私たちがまちあるきしたのは12月だったので非常に寒かったのですが、春夏の暖かい季節はもっと緑が茂って、風も気持ちいいではないかと思いました。

道が狭く、車が通れないのは非常に不便ですが、車が通れないからこそ道も静かで事故の危険性が低いと

いうメリットもあると思います。

また昔ながらの木造住宅が立ち並ぶ景色は趣深く、スタジオジブリの作品に出てきそうな雰囲気があり、懐かしい気持ちにさせてくれました。

昔ながらの住宅地の濃密なコミュニティも魅力のひとつです。狭い道ですれ違うことで自然と会話が生まれる環境にあり、まちあるき中も地域の方同士で挨拶されているのを拝見しました。また、市のプログラムを通して市役所の方や近隣の大学生とも交流があるのは素敵なことだと思います。

もちろん見晴らしの良さは谷戸の最大の魅力のひとつだと思います。坂を下れば徒歩圏内に駅や市街地があり、のぼり道の大変さがなければ非常に立地がよいと思います。

これらの谷戸の現状から私たち2班では谷戸をより魅力的に住みたい場所にするための提案がこのように

(54) 多数うかびました。



道の整備など既存住民の方の生活をより快適にするための提案と、菜園やレストランなどさまざまな空き家活用などで新しく人を呼び込むための提案ができました。

横須賀市では空き家バンクの開設や学生向けシェアハウスの支援など、空き家問題解消と定住促進のために様々な取り組みが行われていますが、それらを今より進めるためには、今より多くの人達に空き家バ



ングと谷戸地域自体の現状を知ってもらうことが必要だと考えます。

私たちは、谷戸には一度訪れると惹かれる魅力があると思います。逆に谷戸の空気に直に触れないとなかなか魅力が伝わらないということでもあると思います。

谷戸を知ってもらうには多くの人に谷戸に実際来てもらう必要があると考えました。

そこで私たちの提案は、空き家を活用したゲストハウスの運営と谷戸の道をPRし、谷戸を歩いてもらう

2つのプロジェクトで、谷戸をより外に



開かれた場所にして、外部の人に谷戸を体験してもらうというものです。

一つ目のプロジェクト、空き家を活用したゲストハウスの詳細です。

そもそもなぜ谷戸でゲストハウスなのかというと、谷戸地域は市街地と周辺のJR横須賀駅、京急汐入駅、逸見駅が徒歩圏内にあるにもかかわらず、非常に風通しがよく、町の騒音も気にならない、時の流れを感じさせない、一日の疲れをとるのに非常に快適な睡眠空間を提供できる場所だと思うからです。

夕食はドブ板通りなどの市街地で横須賀名物を食べていただき、ゲストハウス到着後、谷戸の心地いい風にあたりながら横須賀の地ビール楽しんでもらい、朝食は三浦野菜など周辺地域の名産物を使ったものを提供します。

ゲストハウスのターゲットは横須賀観光にきた方、日本の昭和の暮らしを体験したい訪日外国人観光客や谷戸での暮らしを短期体験したい方で、利用者はホテ

ルに比べると格安で宿泊でき、少し懐かしい昔ながらの雰囲気を経験でき、また三浦半島の名産物を食べることが出来ます。

谷戸でゲストハウスを運営することで、横須賀市の観光ビジネスに加わり谷戸地域のPRができ、また三浦半島の名産物を利用することによって、谷戸だけでなく、周辺地域のアピールも可能です。

そして谷戸での暮らしを少しだけ体験してもらうことで、谷戸の魅力的な暮らしを知ってもらうことが出来ます。

また朝食の提供やゲストハウスの掃除などを周辺住民の方にやってもらうことで、わずかながらでも働く場と生きがいを提供できたらと思います。

二つ目のプロジェクトは谷戸の道をPRです。谷戸の道は狭くて急で歩きづらくて不便だという印象があると思います。実際いきなり毎日歩くことになったら大変そうです。でも、私たちが今回まちあるきしたように1日だけなら複雑な道のりも探検しているかのようなワクワク感がありますし、いい運動にもなります。

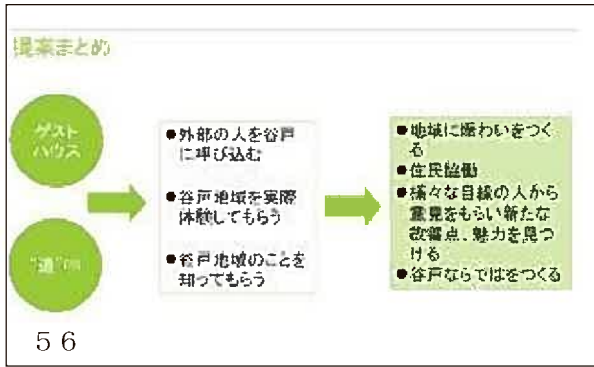
そこで谷戸の道をアピール材料にすることでマイナスイメージをプラスに変えます。

まず浦賀道、尾根道などの主要な道ではない、道や階段にも名前をつけ、谷戸道マップを作成します。

地域住民の方に協力していただき、玄関前や道沿いに季節の花や植物を植えてもらったり、谷戸の昭和レトロな雰囲気を残すために住宅の外観に関するルールをつくり、歩いて美しく、楽しい地域にします。

そして谷戸道マップに掲載されている道、階段をスタンプラリーのポイントにしたり、写真スポットを設けながら歩く谷戸ウォークイベントを開催します。





ゲストハウス、谷戸道PRの二つのプロジェクトで外部の人を谷戸に呼び込み、谷戸地域を実際宿泊や歩くことで体験してもらい、谷戸の魅力を知ってもらいます。外部から人を呼び込むことで、その人たちからまた色々な角度から谷戸の魅力を再発見させてもらい、谷戸のまちづくりに生かすことができます。



そしてこの自然豊かでどこか懐かしい谷戸ならではの景観を残すことで、駅から坂を上って谷戸地域に入るとまるで過去にタイムスリップしたかのような雰囲気をつくれたら広島尾道のように視覚的にも楽しい、歩きたい、訪れたい町になるのではないかと思います。

そして、ドブ板通り、軍港めぐり、猿島などの観光名所と共に谷戸も横須賀にきたら訪れてみたい場所に加わっている未来があるかもしれません。

最後に谷戸のまちあるきを通して、横須賀の特徴的な地形からくる谷戸の景色、豊かな緑の価値は不朽のものだと思います。

また、空き家率の高さはマイナスに捉えられがちですが、つまりそれは新たに何かを始めることができる

場所が多いことでもあると思いました。

そして私自身、大学の講義で谷戸を訪れるまで谷戸の存在や現状についてまったく知りませんでした。特別関心がある人だけでなく、関心がない人の目にも情報が入ってくるようにする必要性、そしてそれによってより多くの人をまちづくりに巻き込む大切さを学びました。

ご清聴ありがとうございました。

## パネルディスカッション

[コーディネーター]

最勝寺靖彦さん(TERA歴史景観研究室代表)

[パネリスト]

比護 友一さん(講演者)

大川 謙一さん(よこすか都市景観協議会代表幹事)

太田 春菜さん(横浜市立大学国際総合科学部学生)



○司会 それでは、これよりパネルディスカッションを始めさせていただきます。舞台左手から順番に、ご紹介をさせていただきます。

このパネルディスカッションのコーディネーターを務めていただきます、TERA 歴史景観研究所代表最勝寺 靖彦様です。

続きましてパネラーのご紹介をさせていただきます、先ほど講演して頂きました、比護 友一様です。

よこすか都市景観協議会代表幹事 大川 謙一様です。大川様は谷戸のご出身でございます。

横浜市立大学 国際総合科学部 国際都市学系地域政策コース3年生太田 春菜様です。太田様は、昨年12月の景観まち歩きで、総括リーダーを務めて頂きました。

以上3名のパネリストの皆さまです。

本日は、講演と発表をふまえ、谷戸の景観を考えるディスカッションを行います。

ここからは、最勝寺様にお任せしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○最勝寺氏 寒い中、オリンピックの最中の中、来ていただきありがとうございます。本当に感謝しております。それから、デイビスさん、永田さん貴重な意見ありがとうございます。大変結構でした。昨年に続き、谷戸を今回も取り上げました。私は、そうすると2年間汐入の谷戸をずっと歩かせていただきました。不思議なことに歩けば歩くほど新しい発見があるんです。

「この谷戸はただものじゃないな」それがこの谷戸の第一印象でした。

じゃあそのただものじゃないとは何であるのかというと、この谷戸にはストーリーがある。物語性がある。その物語の一つは、去年もお話したのですが水仙が多いです。この冬、一生懸命頑張っている白い花を咲かせる水仙です。この水仙はどこで生まれたかという地中海で生まれました。そして、地中海を出てシルクロードをトコトコトコトコ歩いてきたのでしょうか。あるいは、海上の背中かわかりませんが。それで中国に着いたのです。そして、水仙という水の仙人という名前をいただくのですね。さらに、水の仙人という名前をいただいたからなのでしょうね。海を歩く実を売るといふね。そうして日本にやってきました。

そして、地中海で実をつけ、つまり横須賀が気に入ったのでしょうかね。

今、終の住まいとして一生懸命頑張っているのが水仙です。私も年をとってきています。皆さんも谷戸の方、お年寄りの方が多いと思いますけどもなんか同じ気持ちでいるのだなという気がいたしましたね。それがまず第一のストーリー性ですね。

もう一つは、実は不思議なことに神々に出会いました。それはちょっと見えないですけども木の姿の神様が水の姿、風の姿に変えています。この神様に守られたここ横須賀の谷戸なのですね。この神様の話はディスカッションの最中にやっていきたいと思っています。こ

んな話していると一人で終わっちゃいますからね。

さて、みなさん。谷戸から来られた方もおられますけども、そうじゃない方もおられます。もう少し、谷戸の地形を中心に、あるいは砂を中心に、ここの出身者である大川さんから谷戸についてガイドンズをしていただければと思います。

○大川氏 それでは、私なりに谷戸について思いを語らせていただければと思います。

私は、田浦梅林のある田浦大作町の出身でそこで育ちました。

谷戸というのは、私が生まれ育ったところが「これが谷戸なんだな」と思っていたのですが、ここ2年かけて、谷戸について色々勉強させていただきました。その中で、横須賀は谷戸が49あると教わりました。この49ある谷戸は何種類かに分けられるのではないかと僕は思います。これからの楽しみにしたいと思っております。

汐入の谷戸を2年かけて色々な形で谷戸の中を楽しんで勉強して思うことなのですが、この谷戸は私が生まれ育った田浦梅林とは違って上へ、上へ、そして高く、高くいく谷戸です。私が生まれ育った田浦の谷戸は奥へ奥へ行くのです。奥へ奥へ行く中で、道と川が基本的に平行してずっと奥へ奥へ行って、それから山を登って向こうへ行くことは、ほとんどない谷戸だったと思います。どちらにしても、谷戸の良さ、谷戸という言葉の中には、山あい、山と緑。それから川があって、道があって、坂道があって、階段があって。私のところは階段があまり良くないのですけども奥へ奥へ行き、ものすごい奥まで行きます。横浜横須賀道路の手前まで行きます。そこまで、家が建っています。

一言で谷戸ってなんだという「自然の宝庫」です。私が育った時は、うなぎが川にいました。蛸ももちろんいました。そういう緑と空の青さ、横須賀を象徴す

るような空間が谷戸の文化じゃないでしょうか。

○最勝寺氏 ありがとうございます。今、奥という言葉が出たのですが、これは日本人にとって特別なのです。例えば、お参りに行く際、本殿により奥ゆかしいのは奥座というね。奥というのはそれだけ、日本人にとっては、神秘なところと言いますか、奥ゆかしい所なのでね。

さて、汐入の谷戸はどういうところかという先ほど坂が多いと言いましたよね。つまり、上からの視点と下からの視点が交差する街です。それで、上には何があるかという実は神様がいます。実際、尾根のところには神社や祠があります。汐入でもそうです。もしかしたら、現在なくなってしまっているかもしれませんが、小さな神様がいっぱいいると思います。

それから次は谷間、下の方です。下の方は先ほどもお伝えしたように商店街です。ですから、上下がそのまま聖・俗になります。そうしますと下から上に行く視点の流れには物の流れ、物流があります。みなさん、買い物行くときには下から上に持ち上げなくてはいけないわけですね。では、上から下は何かというとそれは心の流れ、精神的な流れなのです。その話はまた何かの折に入れます。

もう一つ、先ほど木に神が宿り、水に姿を変えていくことを話しましたが、比護さんのスライドの中で山の家に井戸があることを知ったのですが、その辺の話をしていただければと思います。

○比護氏 はい、先ほどはありがとうございました。

山の家の床の改修工事をして、部屋の中に井戸を発見しました。その井戸は、素掘りで掘っているだけでコンクリートも何もしていない状態でした。井戸自体の高さがだいたい5mぐらいで、4mぐらい水が入っています。下にちょっと汚泥とかあるのですが、水はとても綺麗で汲んでも透き通っていて、ちょっと飲



む勇氣はないのですが、何かしらには使えそうだなと今考えています。もちろん、メンバーも井戸がせつかく出てきたのだから、地域のためというか地域にもいっぱい井戸があるので、家の中でうまく利用できないかなと、家の中に井戸の腰かける場所を作って土間を作ってその井戸口を利用してお風呂まではちょっと入れないと思いますが、動物を飼ってみたいとか何かそういった使い方ができたらいいなと思っています。ただ、あの辺は山の天辺なのですが、すごく湿度が多いです。もちろん木も多いです。そういったのも周りに井戸が多いことが関連しているのかなと思っています。そういった井戸もこれから楽しみながら活動利用、有効利用をしたいと思っています。

○最勝寺氏 今お話があったように実はその井戸は山頂近くなのです。山頂近くなのに何故水があるかわかりますか。それは、尾根の木を切らなかったから。ですから、その水がだんだん下に流れてきますから、上の人が汚く使うと下の水は汚くなってしまいますね。だから、さっき言った心というのは、根を通してうつるわけです。神様は、木の姿になって水になって流れるわけです。ですから、「木を切ってはいけません」「水を大切にしてくださいよ」というメッセージなので、僕はたぶん比護さんの家を使うとご利益があるんじゃないかなと思うんですね。貴重な水だと思いますので。

水の話はこれぐらいで次の話をしたいと思います。今、自然の話が出て、奥の話が出て、それから水の話です。それから谷戸と言えば道の話だと思います。道の話をお田さんに話していただくのは申し訳ないのですが、逆に新鮮な目で、道とは何かを話していただければと思います。

○太田氏 はい、よろしくお願ひします。

谷戸を歩いた時に感じた事なのですが、先ほどの発

表と重なってしまうのですが、やはり初めて来る人からすると階段がとても大変だなと感じました。階段といってもマンションとかビルとかの建物にあるような形が整っている平らな歩きやすい階段とは違って、形が凸凹していたり、曲がっていたりしているので、歩みにくいと感じました。あと、道が狭いので、一回一回すれ違う時にも気を遣いますし、ゴミ収集や配達、買い物なども大変なのではないかと感じました。ただし、谷戸を歩いた時に五感が研ぎ澄まされたように感じて、新鮮な澄んだ空気や風のなびき、土の匂いなどを感じて、谷戸を環境がとても心地よい所だと感じました。なので、都会を歩いているのとは違って体がリフレッシュされるようなそんな環境だなと谷戸を歩いて感じました。

○最勝寺氏 はい、ありがとうございます。

今、道が良いという話なのですが、僕も大賛成です。皆さんが不便だと思う細い道は何故あるのでしょうか。何故、勾配が違うのでしょうか。普通だったら一直線ですが何故、曲がっているのでしょうか。これはみんな山を大切にしているからです。というのが、こういうところで、山が崩れる理由は崖を作ることです。狭くすれば、崖の面が少なくなりますよね。大きくなれば面が大きくなりますよね。では、この幅がどのくらいかということ人間が擦れ違えられるかどうかです。人間の肩幅は45cmです。なので、最低90cmはなければいけない。だから、縁側や廊下も90cmです。ただ、それだけでは傘を持つからもうちょっと広いスペースが必要、最低限必要なスペースを守っているわけです。

曲がっている理由は、等高線に沿っているからです。無理な上がり方をしないからです。起伏が違うのも等高線に沿って登るからです。そういう具合に山を大切にしているモラル、作法がここには見えます。

そのようにしているからこそ、この山は安全だと言

えます。大規模開発で山の上に家を建てて、道を広くしてしまおうとそれと同時に命がなくなると思います。その結果、先ほど太田さんが言ったような自然と親しむ、土の匂いがする、風を感じる、そういう道にもなっているのですね。僕としては、太田さんと同意見でマイナスではなく、プラスの方向で考えていきたいと思っております。以上で地形とか自然のディスカッションはこんなものかなと思っております。

では、次に人間関係の話かなと思います。ここの谷戸には、こんな言葉があります。生活の暮らしぶりでこういう形があるそうです。谷戸気質(かたぎ)。谷戸の気質(きしつ)と書いて谷戸気質(かたぎ)と言います。それを通して谷戸の人たちの暮らしぶりをこのお話されたのは大川さんです。僕もこんないい言葉があるなと思ったのですが、谷戸気質についてお話していただければかなと思います。

○大川氏 3. 11の大きな地震があった時、谷戸自体は山あいにもまれて、閉ざされているような地形に家が建っている、いわゆる集落のような感じがあると思います。谷戸の中は細い道に建物が連なって、あまり大きな土地でない所に建物が次々と建っていて、それが谷戸の一つの特徴だと思います。

情がものすごく、隣近所との繋がりが非常に豊かな近所付き合いだったと感じております。そのかわり、おのずと濃い近所付き合い、助け合うことがありました。今でもそういうところはたくさんあると思いますが、味噌とか醤油、お米などがなくなると隣から自然と助けてくれるとかそういうのが残っていると思います。ただ、人間関係が濃いということ自体が逆に色々な方が住んでいるため、自分たちの空間を大事にしたいというところがあると思います。少なくとも、協力してその地域をどう考えるかとか何かの時にみんなで力を発揮するというのは、谷戸の気質であり、まとも

りの濃いところが谷戸の特徴ではないかなと私は思います。ただし、新しく他の地域から入ってきた人がその辺の人間関係をどう思うかという全部プラスのことだけではないと思うので、谷戸のまとまりの良さや濃密な人間関係のことを谷戸気質だと思います。

○最勝寺氏 ありがとうございます。

今、人間関係が濃いというお話でしたが、その濃さというのは谷戸によって違うのかなと思います。例えばですが、私が最初に説明した際に見せた枝の葉っぱのような絵を出しましたね。あれは、坂道の絵なのですが、汐入の場合は段々分岐していくのですね。ということは、先端に行くほど人間関係が濃くなっているような気がすんですね。そこは、比護さんは先端の方に住み始め、落語などのイベントをして、人々の付き合いとして谷戸の方々とお睦があるそうですので、比護さんの方から気質についてお話していただければと思います。

○比護氏 ありがとうございます。

そうですね。仲間を引き連れてただ山の上で空き家を借りたから落語来てくださいと言っても誰も来てくれるわけがないので、そういった手順は、メンバーでしっかり考えて、地域に溶け込むにはある程度の手順を踏んで、慎重にと言いますかちゃんと町内会に挨拶したりなどの手順を踏んでやりました。もちろん、先ほども話しましたが挨拶をして、地域のメインイベントは、積極的に手伝って、そこで名前を憶えていただいたのもあります。私の比護という苗字ですが本家は本町、今のメルキュールホテルの裏に「一福食堂」という昭和レトロな食堂があるのですが、そこが私の家の本家です。自分の父親が育った家ですが、あそこは昔からなんでも食べられる地域の今というファミレスのような扱いで、あの辺の人たちはみんなあそこの食堂に行っていたこともありまして、「そこが私

の本家です」というと「あーあその比護さんか」と言われたのが一気に地域の人と距離が縮まったと言いますかそういったこともありました。もちろん、お祭りとかにも参加して、そのあとに町内会長にここで何かできないかなと言った時にそういえば「そういえば落語とかいいじゃないか」と、他にもカラオケなどの案がありましたけど、そういう提案してくれまして、だったら実践して、どうせやるのだったらみんなで最後に食事でもできたらいいねということで今回、敬老の日で行いました。これが、定例のイベントになればいいのですがまた僕が勝手にやると言ってしまうとメンバーに迷惑がかけてしまうため、それは却ってやっていこうと思います。また今回、ジャズライブということで、自分の子どもを出すのですが、またそういうのも地域の人に参加していただければなと思っています。

それと一番奥の家なのですが、道が先ほども紹介した尾根道というのがすぐ家の横を走っていくのですが汐入の方からずっといくと正式な道ではないのですが、たぶん坂本の方までずっと行って、そこから池上の方にまで走って、私の住まいは阿部倉と言って池上の方になりますがそこから歩いて 30 分くらいで汐入の山の家まで歩けちゃうのではないかなと思っています。今は、道路が車社会なので車の道路で歩いて行っていますが、そういった色々な道を調べるのも谷戸の道の魅力だと思っています。その時に、去年の都市景観フォーラムにエトワールの経営者の方に出たいたと思います。去年の 11 月頃、店を閉店してしまいました。週に 2 回しか店を開けていなくて、ただ奥のところに店を開けるといことは、地域の人も来るのですがそこで谷戸を歩いている人が休憩して、トイレをしたいなどの場所でもあったので、その場所が今ないです。なので、自分でこれから地域の人の交

流の場も作るのですが、そういった谷戸歩きに来た方が気軽に寄れて、トイレ休憩やお茶ぐらい飲める場所ができると楽しい場所になるのではないかなと思って今後も作っていきたいなと思っています。

○最勝寺氏 ありがとうございます。

落語会とか音楽イベントをやられて、色々な人と付き合いたいというのは、風穴を開けるということです。それで、まちづくりをする時に 3 つの人がいます。風の人、土の人、雨の人というのがあります。土の人というのは、地元の人です。地元の人というのは意外と自分の良さが分からないものです。僕が日本の良さを外国行くと良いと思うので、皆さん同じだと思います。

風の人というのは、そこにフッと風が吹くと上の土が剥がれて芽がパッと出ます。新しいことを見つけてくれる人です。それが比護さんの役割ですね。それを一生懸命に風の人だから風穴を開けようと思って、落語会などの皆さんとお祭りに参加するってことをされていますね。

雨の人とは芽が出て育つようにする人。ですからボランティアの人とかあるいは資金、お金を出してる行政かもしれないし、企業かもしれない。

話が余談になってしまいましたが、一生懸命風穴を開けて大変だなと思って聞いておりました。

次は、太田さんに順番に聞いていこうと思うのですが、一番難しいよね、人間関係って。酷なのですが、例えばですが、閉ざされた人間関係というのを感じたとかあるいは、子どもがいなかったよとかそういうお話もあったので印象を言っていただければと思います。

○太田氏 谷戸を歩いた印象ですが、歩いていて擦れ違う方は、私たち大学生から見るとご高齢の方が多く、子どもには会わなかったので活気が少なく、高齢化が進んでいるように感じました。

ご高齢の方にとっては、階段や狭い道は大変である



のかなと感じました。ただし、谷戸に住んでいる人たちにとってはそれが当たり前になっていて、私たちが思っているほど大変ではないのかなと一方では考えていて、都会に暮らしている人たちより遅しくて、足腰が強く、健康なのではないかと思っています。

あと、道が細いと先ほど話しましたが、擦れ違うたびに一回一回気を遣って大変ではないかという話もありましたが、道が細いことによって挨拶などの会話のきっかけが生まれやすくなるため、人との繋がりが形成されやすく安心して暮らせる地域なのだと感じました。

○最勝寺氏 ありがとうございます。他に谷戸気質についてこんな行事や祭りが他地域とは違うなどの意見ありませんか。大川さんお願いします。

○大川氏 比護さんからお話があったように餅つき大会、田浦は大会と言うほどでもなかったですが向こう三軒両隣で一緒にお餅をついていました。

また、井戸も必ずありました。それは、ちょうど隣の家との真ん中にあり2軒共用で使用していました。それぞれの場所で井戸はありましたね。

先ほどのお神輿についても、私のところは道が奥へ奥へと続きますが、奥まで車が入れるところだったので、お神輿もそこまで大変ではないのかなと感じました。お祭りもすごく盛んな地域です。以上です。

○比護氏 お祭りの話が出たので、私が家族と住んでいる自宅は阿部倉なのですが、阿部倉では神輿がないです。私はこの歳で神輿を担いだことがなくて、汐入五丁目二区のお祭りに参加して、大人用のお神輿があって、子ども用のお神輿があって、あと周辺の連合のすごい大きくて立派なやつがあるのですが、それをみんなでタスキをかけながら担ぐというのが人生の中で経験をしたことがないぐらい楽しくて、祭りってこんなに楽しいのだと思うぐらいの経験をさせていただき

ました。また、そういったところでお酒を飲んで、そういったところの人間関係というのはお祭り1回出れば本当に密になっちゃうのだと思うぐらいの人間関係になりましたし、よくお祭りって「神輿なんか絶対他の地域の人には触らせないんだよ」というのも全然なく、どんどん担いでというような感じだったので、すごく楽しい思いをしました。また今年も是非参加をして今度山の家の前を子ども神輿が通ったら、山の家で休憩所を作ってまた何かやりたいなど、メンバーに聞いてみないとまだ分からないのですがそんなことを考えています。

○最勝寺氏 ありがとうございます。

まず、先ほどの井戸の話に付け足します。汐入はすごい人口を抱えています。それは、水があるからです。先ほども言ったように木が豊かですので、水がいっぱいあって、井戸が溢れていて、あれだけの人口を谷戸の人たちを支えたのだと思います。

それからお祭りについて、少し内容が外れてしまうかもしれませんが、面白い話かもしれないので、お祭りの話をします。

皆さん、春祭りと秋祭りがありますよね。それと夏祭りありますよね。春と秋がセットで、夏は別の祭りです。どういう祭りかと言いますと春祭りと秋祭りは、農業の祭りです。山に雪が降ります。そうすると山にある水が称えられます。そこには、必ず奥宮があって、その奥宮の水を下に持ってくる行事が春祭りです。そして、田んぼに御仮屋を建ててそこに、2月の間に居てもらうのですね。そして、秋になって山にその水を返すのが秋祭りです。そういう具合に循環しているのですね。確かに汐入の山にも神社がありました。しかしそれは、反対側の谷戸のようです。汐入の方の神社も小さな御仮屋で良いから、小さな祠で良いから奥宮で良いからそういうの建てるとお祭りで良いなど思い

ました。少し話がずれてしまいましたけれども、お祭りが盛んだということで次の話に移りたいとおもいます。

皆さんの話を整理させていただきますと人間関係が濃くて困っているときはすぐに助けてくれるという一方で閉鎖的でもあるという意見がありました。お祭りは、みなさん入ってきて良いよという意見を比護さんが言われていますが、逆に言う तो ちよつと閉鎖的に感じたからかもしれません。どうしても僕も色々な谷戸とか行くとどうしても閉ざされていました。

じゃあ開くにはどうしたらいいだろうか。

これは実は、景観協議会でずっと2年間考えてきたことです。もちろん、市の景観係にも協力していただきまして、7~8回散策させていただきました。どういう形でしたかと言うとまず植物を研究してみようということで、植物を見に行きました。その時、先ほども話したように「この植物は海の匂いがするね」とか「ウメノキゴケがあるからこんな新鮮な空気があるんだ」とか感じましたね。

次は、昆虫で歩きました。昆虫を気にしながら歩くのも楽しいですね。色々な種類の蝶々が飛んでいました。どんなどころに飛んでいると思いますか。蝶々は花が好きです。つまり、そこは暖かいとか日差しが良いのですね。ここに住まわれている方は、古くから住まわれており、良い環境に住んでいるのだなと感じました。それから、花が多いということは、おそらく自然種ではなくて、園芸種だと思いますね。だから、この人たちが長い間をかけて花を育ててきたのだという証ですね。

一方で蜘蛛の巣を見ました。いっぱいあります。蜘蛛は風の天才なのです。風を使って、2,500mぐらいあげちゃう、もっとあげちゃうかもわかりません。なかなかそのぐらいまであげることはありませんけどね。

本にはそう書いてある。

皆さん、巣を作る時どうやって作るか知っていますか。必ず川上から作っている。そうしないとあの模様はできないのですね。じゃあ楽はどうできるか。それは、風を受けるように作ることです。何故なら虫は風に乗ってきますからね。ですから、汐入の谷戸を歩いていて良い風だなと思いましたね。そんな歩き方をしました。

それから、ここにも来ている横浜市立大学の学生さんとも歩きました。これは、新鮮でした。話しているのを聞くとびっくりします。この間、国吉教授が「学生は常識はずれなことをよく言うから」と言っていましたけど、すごく新鮮な意見で良いと思いました。僕たち、まちづくりを専門としている人だとどうしても現実的に考えすぎて、逆に谷戸を見れなくなってしまうのですが、こういう見方があるのかと思いました。

それから、一番最近歩いたのは市民の皆さんとです。そしたら、「ここは迷路みたいだね」という意見がある一方で、ここは「となりのトトロ」だ。トトロの森みたい、先ほどもそういう話が出ましたけれども、「ねこバスももしかしたら会えるかもしれないね」という方もいました。

非常に魅力的な谷戸で何回かにわたって歩いてきたのですが、これは色々な人を通すことによって、開かれる谷戸を作りたいという意図でもあったのですが、その辺の散策をした際の感想などをずっとお付き合いしてきた大川さんからお話聞ければと思います。

○大川氏 汐入の散策は、先ほどもお話ししたように、神聖な気持ちで階段や坂道を登り、こういう形の中で家が建っていて僕からするとすごくダイナミックな町で面白いなと感じられました。

汐入の谷戸を開ければいいのかという話になるかもしれませんが、谷戸を知っていただく、横須賀の良い

ところがたくさんあるので、特徴的なところで汐入の谷戸を散策していただいた中で、比護さんがやっている空き家をうまく使った形で、一つの活動をしていく。そういった活動をしていく「場」が開いていく一つの有力手段であろうと思います。ですから、理屈では色々あっても比護さんのように「まず行動してみよう」と。とっても難しいことだと私は思います。仲間として比護さんをものすごく評価させて頂いております。そのような形で、それぞれの設計をしてどういう形の場なのかも含めまして下町、それから横須賀の中心の人たちに伝えていくというか、そういう地道な活動をしていくことによって、空き家率とかその辺も含めて少なくなっていくでしょうし、横須賀全体の魅力の一つである谷戸の理解を深めていこうと思います。ですから、色々な形で人が集まれる場の設定をどういう風に作っていくかがこれからのポイントだと思います。比護さんの毎日走っている姿を見て、みんなが一つ一つ真似をして、できるだけ賑やかにやっていただければと思います。

○最勝寺氏 今、場の設定と言う話がありました。本当はすぐに比護さんに話を振るべきでしたけども、実は先ほど横浜市立大学の学生から子ども学校の話が出ていました。その辺のことについて、太田さんの思うような話をしていただければと思います。

○太田氏 谷戸を開く試みとして、初めて来る人達にとって、谷戸はやっぱり閉ざされた世界であって、入りにくいところがあるので、そうしたイメージを払拭するためにも子どもが遊べる場を作ることが良いのではないかと考えています。先ほど、デイビスさんの発表でもありましたけれども、今の子供達は、のびのびと遊べる場が失われてきていて、子どもの知的的好奇心とかを育ませることが難しくなっているのかなと思います。そんな中、谷戸を通しての実体験。例えば、

理科の教室だったり、農業体験、空き家改修だったらフローリングを張ったり、障子を貼ったり、ペンキを塗ったりとか多世代との交流を通して、一生の学びができるのではないかと考えています。また、子どもたちが谷戸に入る環境を整えることによって、家に帰った時にもお父さん、お母さんに谷戸のことを話したりすると思います。そうすると今まで関心のなかったお父さん、お母さん世代の人たちにも谷戸に関心を持ったりして、「谷戸ってなんだろう」と考えるきっかけを作ることができると思います。土日とかだと子供たちが谷戸に遊びに行く際、親御さんたちが付いていくこともあるでしょうし、そういったことで谷戸を知る機会になると思います。自然豊かで心地よい空間なので、日ごろ疲れた体をリフレッシュでき、癒される場になるのではないかと考えています。

まとめると子どもを入口にすることによって、今まで関心のなかった親世代の方々にも谷戸を知っていただいて、開いてくることができるのではないかと考えています。

○最勝寺氏 なるほどね。子どもに連れられて親が入ってくるというのは良いですね。先ほど、デイビスさんの話を聞いていて、さすがだなと思ったのは、子どもたちが入ってきてそれを年寄りがサポートする、教育する。この関係性は、良いと思いますね。僕も子どもたちに伝えたいことがいっぱいありますからね。それは、喋ってやるのではなくて行動することの方が良いですし、他人の方が良いのかも分かりませんね。おばあちゃんとおじいちゃんと子供たちが繋がって。それから、谷戸は良い環境ですからね。ドングリも拾えて、ドングリで色々な人形も作ったりできますし、それをお母さんに見せて「じゃあ私も登ってみようかな」なんて連鎖していけば良いかなと思いますよね。谷戸に暮らしていない私が言うのもちょっと冷や冷やし



いのですがそんな気がします。

では、次に谷戸の場づくりをしている、汐入の谷戸で子どもたちが最初に行くところは比護さんの家かわかりませんか。そういった場づくりも含めて比護さんがまとめていただければと思います。

○比護氏 場づくりということで、まさにそれをつくるために活動をしているところです。

今の家を借りる時、僕もメンバーもすごく不安でした。家を一軒借りるというのは、書き出しははいけないとかあそこまでボロボロだと補修費も結構かかるだろうなと感じました。多少は自分もそういう知識があるので、だいたいこのぐらいの金額で直るだろうなと思いつつ、とりあえず借りて手を付けてみようよと始めてみました。メンバーの中でも半分ぐらいは疑問視する声でしたが、無理に押して活動を始めました。

場を作ってみると敬老の日に寄席を行い、マスコミ数社から取り上げられた時に携帯番号を新聞記事に出してしまいました。そうすると、次の日から電話がバンバン鳴って、応援メッセージとか「うちも谷戸なのよ。どうすればいいのかな」とかそんな話が結構きました。その中でも大学生の方がすごく興味をもって連絡してくれて、優先的に山の家に来てもらって横浜国立大学や東京工業大学、横浜市立大学、多摩美術大学などの色々な学生さん達に会いました。その時に、あの場を見せると新しい空間だと感じるみたいです。現在、古民家利用とかすごく流行っているじゃないですか。ちょっと昔からするとあんなのバンバンみんな取り壊して新しいのを建てていましたけどあの年代になるとすごく価値がある。山の家にある木のサッシとか見せると今だと珍しいですね。鍵とかもどうやって閉めるんですかとか言っていました。若い世代からするとまるっきり新しい空間なので、逆にそういった家を

今後、彼らがうまい具合に利用してくれて、例えば谷戸のところで家を買ってと破格で家が帰るので、そういったところも改修すればこのぐらいで済むよとやれば若い世代でも手が出るのではないかなと思っています。そういった色々なことで場を作ったことで実際自分たちが動いたということで色々な提案をできますし、そこで交流もできているので、とても今は楽しく活動をさせて頂いております。

○最勝寺氏 ありがとうございます。今の話を聞いてこう思ったのですが、場を作ったということだけで世界が変わってしまう。一番変わったのは、比護さんだと思います。あつという間に人間関係が変わっていきますからね。今まで学生さんと喋ることなどそうなかったと思いますけど、この間も東京工業大学の学生さんと会ったよって話をしていましたね。相当変わったのだと思います。それで、もちろん外の学生さんだけではなくて、地元の方も相談に来ているとのことなので、場を作っていくことの重要性が端的に証明されているのではないかと思いますね。そんな気がいたします。

他に何かありますか。大川さんお願いします。

○大川氏 車が入らないから階段とか坂道がひけたというところは、明らかに日常生活ではマイナス面が多いと思います。住民票を移してそこに実証的に生活してみたいと思うほど魅力があるかと言うと全くそうじゃないと思います。ですから、汐入の土地をどうやっていかしていこうかと言った時にそこに実証するということができにくい場所もあると思います。それは、ある時期ここに住んで、また土日はここ行くと色々なライフスタイルの中で、利用できるパターンはすごくあると思います。人間だから物を作ることや、環境を作ることは少しぐらいできても自然を作ることは全くできないわけで、例えばある角度からするとめっちゃ

くちや厳しい環境だという方もいらっしゃいますが他の角度から見るとめちゃくちゃ面白い、めちゃくちゃ魅力あるというところも見えるわけですから、良いところを色々な使い道を考えていく。先ほど、横浜市立大学の永田さんが発表したゲストハウスの話というのは、僕は現実的で確実にいけると 생각합니다。利用する人もいます。今、外国の方もできる限り安く、リーズナブルに日本のホテルや家屋を利用したいという人があえて普通のビジネスホテルを利用したいと思っていないはず。できたら、日本スタイルの畳がひいてあるような、日本人からすると畳なんてと思うかもしれませんが、外国人は畳の方が良いですね。そういうところで、横須賀は米軍の基地もありますし、ある時期横須賀のホテルだけでは足りない時期があるらしいです。そういうところも横須賀の特徴的なことですから外国人が来て、昭和のレトロということじゃなくて、日本の家屋に住むこと自体は日本人が考えるよりも全然抵抗がないのではないかなと思います。特に汐入には銭湯もありますし、そういうところで一つの楽しみ方の横須賀のあの辺の周遊を全体の中で流れを作って終わった後に谷戸に泊まるとか、僕はかなり現実的に考えられるのではないかなと思います。

○最勝寺氏 確かに定住は難しい。でも谷戸を開くという意味では週末とか旅人とかあると思います。先ほど大川さんの話の中で、永田さんのゲストハウスの話がありましたけれど太田さんの方で付け加えることがありますか。

○太田氏 先ほどのゲストハウスの話ですが、訪日外国人が増えてきていて、民泊とかも話題になっていることから分かると思うのですが、ホテルでの滞在より「ありのままの日本」だったり、生活観とかを求めて日本に来る人も増えているので、まさに谷戸はそういう方々にとってはすごく魅力的な場所ではないか

なと思います。

訪日外国人だけではなくて、普段都会の生活で慌ただしいを送っている人たちにとってもゲストハウスと言う拠点があることで、日常を忘れてふっとできる場っていうのがあるのかなと思います。ゲストハウスという拠点があることで、また来たいなと思い、第2の家のような存在として担うのかなと思います。

谷戸にはストーリーがあるという風に仰っていたのですが、そういった方々に向けて「谷戸探検ツアー」のようなものを企画して、谷戸を感じて、リラックスしていただくだけではなくて、知る機会を作ってもよいのかなと思います。実際に来て学ぶから感じることもあると思いますので、せっかく来ていただいた方なので、知っていただく機会を作るのが良いのではないかなと思います。

○最勝寺氏 ありがとうございます。場づくりの重要性がよくわかりました。私の方では違う意見を述べていきたいと思います。せっかく私たち2年間に渡って歩いてきました。来れば来るほど不思議で新発見があり、ただものじゃないなと思うようなルートをずっと歩いてきました。このルートを住民の方と相談して、プライバシーや安全性もありますので、ルートを作っていたきたいなと思います。そうすれば、色々な人が入ってきて、土地の人が接触されていく。すべて開けばいいというわけじゃないと思うのですが僕は大事だと思う。何故かと言うと自分たちが知らない驚きがあるからです。宝物がいっぱいあるからです。それを学んでほしいということがあるのですね。ところが今の状況でルートを歩いてもその宝物がどこにあるのかわからない。この木は何がすごいのだろうか。先ほどタブノキの話をしましたけれど「この木は私たちの大先祖の木なのだ」とかがわからない。そういう気持ちを持っていただくためにも、あるいは谷戸の色々

な神様、昔話も含めて宝物の財産目録を作ってほしいですね。それで、それを皆さんと色々な人と共有して、来る人に説明するといいかないと思いますね。もちろん、子どものルートにもそれが必要だと思います。それが私のルートづくりと宝物財産目録を作ってほしいというのがお願いしたいことです。協議会の人に1年間かけて作っていただければなというような気がしますね。そんな気がして一応谷戸を開くというテーマを閉じさせていただいて、最後のテーマである空き家について話させていただければと思います。

「空き家」これは難しい難問ですね。解決する答えはでないと思います。しかし、足掛かりみたいなことができないかな。足が一本乗れば、次の一本は登るわけで足掛かりがないと何もできません。まず、足掛かりを作るために、色々な話を聞いて太田さんが中々良いご意見を発せられるので、また登場していただいて、歩いて感じた空き家の印象の話をしていただければと思います。

○太田氏 私たちが歩いた谷戸地域で感じた事は、谷戸には空き家が多いなと感じました。ここは空き家だよと言われて空き家の前を通る時に寂しいなと感じました。

あと、空き家は山の上にあるというよりは、道の途中に多いなといった印象を受けました。

○最勝寺氏 今、寂しいなといった話がありましたけれど、私が一番恐れいているのは空き家が空き家を生むということです。連鎖してくるのですね。これはなんとか止めなくてははいけません。ですから、空き家が生まれたら早く方向性を見出して何とかしなければいけないというのが実感です。周囲はすごく多いそうです。今、一番周囲がやらなければいけないことは、今ある空き家を少しでも減らすということが必要です。

それからもう一つお話を聞いていてすごいなと思っ

たのが、空き家は山の上よりも坂の途中に多いという印象があると聞きました。僕も例えば浦賀道を通っていると浦賀道は尾根道に近い所を通っているのですが、浦賀道の上の方は環境が良いのですね。何故かと言うと日当たりが良いから。それから尾根の方は土地がなだらかですね。そんな意味で坂の方は空き家が多いのだと思いますけど、昔から住んでいたところは意外と空き家が少ないのかなと思いますね。

私の話ばかりで申し訳ないので、次の話にいきたいと思いますけど、空き家は比護さんが良いのかな。比護さんの方でうまく話してください。

○比護氏 空き家ということで、ただ一言で空き家といっても空き家にも色々ランクがありまして、昨日まで使っていてすぐに使える空き家もありますし、2～3年空けてしまって住設関係、給湯器とかがダメになって、手を加えないと住めない、また山の家みたいに7～8年ずっと窓閉めたままだと床が傷んでしまって、もう少しすると屋根から水が入り込んで、雨漏りして構造からダメになってしまい、建物として使えなくなってしまう。だいたい4段階ぐらいあるのかなと思います。

こんな活動をしていると色々な方から「うちの空き家を見てくれないか」といった電話がかかってきまして、山の家の下なのですけど、本当に綺麗にリフォームしたばかりなのですね。そんな空き家でも、「息子も出てってしまって住む人もいないから誰か住む人いないかな」といった相談も受けます。「家賃はどのくらいで良いのですか」と僕が聞いたら「家賃なんかいいよ」と言う方がほとんどです。「もう住んでくれて雑草取ってくれるだけでいいよ」と、まあそんなわけにはいかないもので、そういうところは3万円ぐらいで貸してくれるんじゃないかなと思います。契約はちゃんと結ばないとだめなのですが、そういった今す



ぐ使える空き家もありますし、私の母が住んでいたボロボロの家なのですが「かなり家を長い間空けてしまってもうどうにもならないんですよ」という相談も受けたり、私のところだけで土地も含めて5~6件きています。それで、明確なことは中々言い辛いのですが、貸せるのだったらすぐ不動産屋に言って貸した方が良いですよとか、場合によっては一回壊して土地をまっさらにして、土地だけ売れるのかどうかわかりませんが、最初にやった方が良いですよとか色々提案させていただきます。ただし、解体するにしても例えば山の家が道路に隣接している建物だった場合、機械でやれば2時間ぐらいできちゃいます。一瞬できちゃうのですが、あの場所だと見積もりはちゃんと取っていないのですが、運搬費入れてたぶん50万かかるところ、2倍以上かかってしまうんですね。それだけ解体費が高かかってしまうため、お金を捻出できない施主が多いですね。電話が来る多くの施主の方は相談来ただけあって、あまりお金をかけたくないという現状があって、お金があれば自分で壊したりすると思うのですが、だいたい利用方法に悩んだ方が多いのは確かです。自分も仕事をやっていて、それが本業ではないので、うまく対応できれば良いのですが、電話で対応できるのはすぐやるのですが、難しい相談の時は先延ばしにして対応している状況です。山の家の場合を作ったことで、こういった相談に対応することは、ある程度覚悟していたので、近所の人から床がブヨブヨしていると言って見に行くのも自分の仕事だと思っています。

空き家の問題とは、少し違ったかもしれませんが、現状として皆さん困っていると言いますか、自分の持家があって、親が住んでいてその家がいらなくなったということがほとんどです。

○最勝寺氏 ありがとうございます。すごいですね。

普通に壊すより、2倍以上かかるというのは驚きですね。

あともう一つ、私は今72歳ですから携わっていないのですが、徳島県脇町というところに古い民家があるのです。300mぐらいの街並みに500軒ぐらいの倉敷みないながあります。ここもやっぱり空き家が多いですね。空き家を人に貸すという話もあるのですが、怖いのは貸した後にゴタゴタが起こることなのです。それで、私の方の街として、街が、行政がそこに仲介していただくという形で、スムーズに信頼関係ができるようなことをしています。

こちらへんでは、そういう貸し借りで躊躇をしてしまったりはないのですか。借地権ができたり何かしているのですか。

○比護氏 横須賀には空き家バンクの制度もあるので、そういったところの提案もさせていただいている。ある程度あまりにもボロだと手を入れないとダメなので、「大きく貸すのであれば150万ぐらい出したらどうですか」と言っているのですが、そこまで出せないのが現実ですね。だったら壊してしまおうかという方が多いですね。

○最勝寺氏 そうですよ。150万出しても家賃が3万円ですと相当大きな額ですよ。すぐ、解決策が出ないで申し訳ありません。ただ私は思うのですが、どうしても空き家になる環境があります。環境が悪いのです。それは、日陰と湿気です。どんなところが湿気が多いかというところ谷の一番奥です。ここは日陰なので、そうすると、尾根の山の方の木の間はやっぱり日陰とか落ち葉が多いので、どうしても空き家率が高くなります。元々、ここは無理なところですから、空き家にするとうすぐ建物の崩壊が始まります。何故、崩壊が始まるのかと言うとみなさん住んでいる人がすごく手を入れてくれるから保ってくれ

るのですね。一気に自然に戻ろうと号令を出している。そのため腐食が大きいのですね。と考えても良いと思います。ですから、もしこちらへんは合意を得られれば森に還してあげた方が良いでしょう。ですから、例えば業者の方々が空き家を活用する、多用途という問題があるとしたら、それは順番ではなく、質の問題や環境の問題だということを入れておいた方が、「ここは使った方が良いでしょう」、「ここは壊した方が良いでしょう」という風になると思います。

しかし、考えてみると谷戸の環境は素晴らしい。そういう話がある。つまり、自然と生活が一体化するというのは住まいとしては理想なのですね。じゃあ、この素晴らしい環境がある谷戸のライフスタイル、谷戸ライフスタイルができないだろうか。そして、谷戸スタイルを構築する、空き家ですね。谷戸を驚かすというね。谷戸モデル。そういうものがないだろうか。これができれば、つまり、自然を満喫するような家。ちょっと今までの家はもしかしたら谷戸を否定したような建物があったのではないかと思うのです。ごく普通の都市で流行していた家にしていただけかわかりません。そこでちょっともしかしたら谷戸モデルというものができれば、皆さんから注目を受けることができるのではないかと思うのですが、大川さんが建築家なのでお聞きできればと思います。

○大川氏 簡単に谷戸のモデルパターンというのは、こういう設計したら答えですよという理想のものが、パッと出てこないのですが、一つは谷戸の環境といいますとある程度大きな平地からすると結構不平等な条件があるのです。つまり、山あいですから位置によっては日陰になる、それから細い道で奥へ行きますから、風の向きによっては道沿いに猛烈な風が吹く場合があります。それは、マンションとマンションの間に、今まで風がなかったのですが、マンションが建ったた

めに、昨日もちょっとある人のところ行ったら、マンションとマンションの間に猛烈な風が吹いているんだよと、これ葉山の人だったのでですけど、そのように自然を満喫することは絶対できるのですが、みんな平等じゃない。敷地によっては非常に不平等。その不平等の中で建築の皆さん、特に海軍工廠だったときは、おそらく日当たりが良いとかどこ向きの家だとか空いている土地はとにかく建物が建ったのだと思います。だから、冬になると山の影になって日が当たらないところでも昔はみんな住んでいました。今も住んでいる方いらっしゃいます。ただ、そういうところは最勝寺先生が仰ってたようにだんだん空き家になっていく可能性があると思います。谷戸の中のモデル的なパターンというのは、どうしたら、こんな風に、ということを考えたいなという思いは結構あります。

一つは、機械で冷房、暖房で温度調整をすることは、今でもやっていますし、これからも補助的なことをやるのでしょけれども、谷戸の夏の涼しい風というのはものすごくごちそうです。それから、木々の中で光が差し込む太陽の影とかあのような土地ではないと感じない経験を私もした覚えがあります。ですから一つは、縁側をすごく大切にしたいくらいなとおみます。今、まさに谷戸の方から設計をしてくれと依頼された時には、山がどっちに向いているかがポイントになってくるでしょうし、農園やテラス、バルコニーなどの重要性が魅力を深めると思います。

田浦の谷戸に最近、金沢八景から引っ越してきた方がいます。なんで田浦に引っ越してきたのか聞いてみたところ、山の景色を見ながら食事をするのが夢だったそうです。ですから、2階建ての建物の屋上から、もしくはベランダから山の景色を見ながら家族で団欒をするような環境がある田浦に来たいです。その話を聞いたとき、とても嬉しかったのでまた話を聞いて

みたいと思います。そういう方も見えているので、むしろ若い人の方が自然と付き合いたいという思いに飢えているのかなと思います。

○最勝寺氏 そうですね。おそらく、若い人は逆に魅力を感じるかもしれませんね。

私は、こう思います。山の家のセオリーというものをお話させていただきます。私は、民家研究科なので民家の話をさせていただきますと皆さんは家を建てる時に正面を日の当たる方向だと思われていますが、基本的には風向きです。今は、暖房や冷房ができて、大丈夫のように思い、気付きませんが色々なところが風向きです。ですから、海から来る柔らかい風を腹いっぱい受けるためにこちらに正面を受けます。等高線ですから当然空気が狭くなります。そうして風を受ける。そして、背中寒い山風は壁を作って防ぐというのが原則です。それから、風を受けるためにもっとも良い方法が崖のところにテラスを作ると清水の舞台みたいになります。それが他のところのない特徴になります。風を受けるのに素晴らしい形になると思うのですね。それを景観協議会の建築家の人に勉強してもらい、できればコンペなどをして、モデルを形にしてみせることが大事だと思います。終わらせてありがとうでは分かりにくいので、そのような動きを一つの経費としてやっていただければと思います。そういう意味ではモデルハウスを作ることが大事だと思います。その際、新築が良いのか改築が良いのか両方の案内が必要だと思います。しかし、そういう民家の醍醐味の一つは作りながら住むこと。比護さんが先ほどからずっと言っていることですが、そのベテランである作りながら住むという作法。それについて、話をしてもらい、空き家の話をおしまいにしたいと思います。

○比護氏 既存住宅の新築か改修工事にするかは、新築だと値段がかかってしまうため、きちんとした回答

になっているのかわかりませんが、改築をすることの方が現状にあっているかなと思います。山の家もいくつか増築と増築を重ねて、最勝寺先生にも一回入ってきていただいたのですが、風の流が本当に悪いのですね。風が一方からしか入ってこないですし、こっちは全部壁だしということで、あまり風が入ってこないで、先ほどの映像でもありました通り、エアコンを入れてしまいました。これもやっぱりメンバーの中から「谷戸にいるのだからエアコンなんかいらねえだろ」と意見が出ましたが、やっぱり暑いんですね。屋根がぼろいですし、鉄板でもちろん断熱材なども入っていないですし、冬は寒くてそんなので、改修工事の方が良いと思っています。

先ほども、空き家のランクの話をして頂いたのですが、家は締め切ってしまうとすぐダメになってしまうのですね。カビが生えたりとか。だから、空き家になった時点で、例えば先ほども言っていた週末だけ住むとかそういった方に渡せるような状況にあれば、すぐ人に貸せるようなことができれば良いと思います。あと、工事の話をしていただくと人件費が一番高いのが現状です。先ほど山の家を直した時、36万円かかったと伝えましたが、その倍ぐらいいは人件費がかかってくると思います。そうするとそこまで直すのに100万円以上かかってしまうのが現状です。これは、私の祖父からの話なのですが、現在の横須賀市が発注する公共工事は予算が付いたものに対して、予算内で工事していますが、昔は市にお金が全然なかったのですね。例えば、公民館や町内会館ですね。その時代には、市にお金が全然なかったですね。とりあえず材料は古材をかき集めて、それを地域の人みんなの手伝いで、地域の中には必ず大工さんがいたので、休みの日にみんながそうやって作ったと聞いています。今は、行政にお金がある、といういい方はおかしいのかもしれない



れませんが、そういった動きをみんなで作るというのを、例えば谷戸の中で土産だけはこの日にやってくださいなどの提案もありなのかなと思います。実際、多摩美術大学の学生が他の汐入の谷戸でリフォーム、リノベーションをやっているのですが、毎回Facebookに「今日、何時何分やります。集合!」とやると必ず何人が集まっているのですよね。そういった召集をすると学生さんが楽しそうに、わざわざ時間を作って集まってくるのですね。荷揚げをやったりとかリノベーションを楽しむ姿もSNSを利用してやっている姿もあるので、そういった改修方法もやっていると楽しそうに見えるので、そういったのも今後、若い人の中では良いかもしれませんね。例えば古い家を借りて「ここここ直さなければいけないのだけど誰か来てくれないか」というと好きな人は何人が集まってくるのか、そういったのも良いのかなと思っています。

○最勝寺氏 大変結構でした。

一つ、お話しておきますと、山の家の間取りで不思議に感じた事があります。皆さん、間取りを思い出してください。北が谷側ですよ。そうすると台所二つあって、玄関二つあるよね。明らかに改築が行われ、そのためにちょっと住みにくくなってしまった。北側に便所があるのは、何故だかわかりますか。あれは、本来であれば風を受ける正面であるから置きたくない。でも、便所の汲み取り制度があった時にどうしても道路側に便所を作らなければいけなかったから、作ったと思いますね。しかし、そのことを外せば北側は縁側だったかもしれませんね。それは、ある時から二世帯家族みたいなことを想像して変わってしまったのかもしれませんがね。まず、あのような民家をやる時は、最も古い作法に戻ることが必要かもしれませんね。

あともう二つの意見で、僕は比護さんが大変だけど

やってほしいのは、色々な改築したい人の窓口になってほしい。仕事が工務店関係や建設関係ですし、それから色々なボランティアの方もおられるので、なんかそういう仲介の窓口が必要かなと思いますね。こんな無理なお願いしてはいけないのですが、そういう窓口がないために動かないのですね。そうすると一軒、一軒の空き家をどうしようかと言うよりも空き家が減少したり、こう使ってみよう自然に生まれるような気がしますから、こういうソフトな使い方、そして人材の発掘と言いますかね。それが大事だと思っています。

時間がそろそろということなので、僕の方で締めさせていただきます。

横須賀市には空き家バンクがあるそうですね。空き家バンクについて、お願いがあります。たぶん、空き家バンクの場合、この家がどういう間取りしていて、額はどのくらいで、固定資産税はいくらぐらいということは書いてあると思いますが、その中で今日お話をした活用の方法のアイデアを入れていただければと思います。また、「どこの誰にお願いして」と言ったソフトの話を入れておかないと単なる固定資産台帳のような事実だけしか載せていないようでは、いつも空き家バンクがダメになってしまう理由だと思います。そのアイデアとかソフトを入れていただいた方が良いでしょう。

それから、そういったものが発信と受信ができる場づくり。もしかしたら、場づくりの窓口というのは多く比護さんがやっているのかもしれませんが、場があると良いと思います。空き家バンクが単なる台帳としてあるのではなくて、活用する色々な窓口とかできれば良いと思って空き家の話を終わらせていただきます。

あと少し、「ここは景観フォーラムであるから景観フォーラムについて一言話してくれないか」と主催者

側から言われておりますので、その前にご質問があれば、ご質問受けたいと思いますが、どなたかありますでしょうか。

○質問者A氏 お疲れ様でございます。空き家について、色々な話がありますがその前に谷戸について、私はまさに汐入5丁目に78歳になりますけども、生まれも育ちもまさにそこで住んでいます。まず、最初にいいですけど、大川さんが「谷戸気質」と言いましたが、私たちが子供のころは「谷戸根性」と言いました。どういう意味かと言うと島国根性、半島根性、谷戸根性。もちろん、島国というのは、日本国。半島は、三浦半島。もっとスケールの小さいのは谷戸根性と言っていました。それで、町内役員・会長になるには30年以上谷戸に住まないとなれない。30年満たない方は、「にんびにん」人に非ずと書いて人非人。

それから、先ほど比護さんがまとめの時に誰でもいらっしゃいと言っていましたけど我々が子どもの頃はそのようなことを言いませんでした。よそ者には絶対に担がせない。

それから、私たちが大人しかったのですが神輿を担いだのは十数人しかいません。半分ヤクザみたいなものでしたから担がせないのです。お祭りになると救急車がしょっちゅう来るような世の中でした。

それで自慢話ではありませんが、私がボーイスカウトや青少年指導員、体育指導員などを通じて、この谷戸根性は決していいものじゃないと私たちがぶっ壊してしまったのですね。

町内会で一つ面白いのが、普通は一丁目だったら一丁目町内会、二丁目だったら二丁目町内会。なぜか汐入は、二丁目一区町内会、二区町内会。五丁目一区町内会、二区町内会とあります。何故かと言うと仲が悪いからなのですね。それを解消するためにどうしたら

良いかと思ひまして、私が祭りの神輿を利用しようと思ひまして、当時30代の時に連合町内に掛け合ったところが、じゃあみんな一丸となってやってくれればと言うことで、今ある連合青年会を40年前に作りました。

何故、汐入にタスキの色が7つのあるのかと言うと、町内カラーなのですね。それで見分けているというものであって、もう一つは青少年指導員の時に坂本中学校の生徒たちに「どうしたら君たち入ってくれるのか」と言ったら「大人とじゃなくて僕たちだけで担がせてもらいたいから」と言うことを聞いてあげたところ、女性や子供が入るようになって、今では女性や子どもがいっぱい入っています。昔は担がせませんでした。ヤクザが担いでいましたから。裸になると刺青でしたから。汐入と言う場所は、ヤクザの吹き溜まりでした。

それから、谷戸に何故空き家が多いかと言うと、さっき比護さんが言ったようにみんな壊してどこかに行きたいのです。今残っている人は、行くにいけない。それから、山に住んでいて平気な人。踏切のところまですら降りてこない。

私の女房は新潟の雪国なのですが、六日町。4m。それを知らない人からするとスキーで遊びに行った時はこんないい所はないと思うでしょう。しかし、新潟の人に悪いけど住む所じゃないですよ。

谷戸が一番困っているのは、火事ですよ。それから救急車。私なんか家を出る時、2回～3回は火の点検に回りますよ。それぐらいみんな気を付けていますよ。1回火が出たら終わりだというから。

だから、谷戸と言うのは空き家を埋めればいいというわけではなくて、汐入小学校だって私が子どものころは1,500人ぐらいいたのが、今150人いないですよ。そのうち統括されちゃうと思うのですが。

まず、それには米海軍横須賀基地とか東芝とか日産とか浦賀重工とか働く人が住んでいたということを考えてあげないと、今残っている町内会は年寄ばかりです。若い人はいません。あの場所では、若い人なんかいるわけがないですよ。谷戸で借りるのであればもっと安い所で借りられますから。

谷戸に住んでいる住民として、分からないことがあれば聞いてください。以上です。

○最勝寺氏 その通りだと思います。私たちは形だけのお話をしました。ですから、最初にこれは難しい問題で足掛かりというのはそういう話で、もしかしたら軽率な意見が出て、申し訳なかったと思っています。

私たちももっともっと勉強していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから、根性の話とてもよくわかりました。ありがとうございます。

○質問者B氏 港が丘に住んでいる吉田と言います。谷戸を壊した方の地域かなという感じです。

横須賀らしいまちづくりという観点から言うと人口を増やすため空き家を減らすことと、他所から観光客が来て賑やかになるという2つあるかと思います。そこで、大川さんに質問ですが、49の谷戸があると言った時、小学生を対象とするのか、市外の40～60代中高年がいかにか谷戸に来てもらえるかが重要になってくると思いますが、49の谷戸がいつ頃にできたものなのか。また、歴史的な街並みを調べた上で、色々な観光ルートに組み込んでいけば非常に良いと思ったのですが、いかがでしょうか。と言うのがまず一つ。

それから、人口増といった時に、横須賀は人口40万人切ってしまうと、どうするのかと言うところだと思いますが、YRPとかありまして、そこでは数千人働いているそうです。20代の人でも数千人いて、横須

賀を通り越して東京とか横浜から通っている人がいっぱいいるそうです。そういった人をなんとか汐入とか横須賀市内で食い止めてうまくできるようなやり方はないのでしょうか。

○大川氏 まず、49ある谷戸のことについては、私も同感で、近々調べて魅力を考えていきたいと思えます。

○比護氏 答えになるか分かりませんが、YRPの若い世代が市内で働いていても、住んでいるところは横浜とか市外の上の方になってしまうということなのですが私が高校生と中学生の子どもがいて、教育の観点から見るとどうしても公立の学校に行かせたくない親っているのですね。差別に聞こえてしまうかもしれませんが、高所得者の家庭とか。例えば友達とかでも子どもが同じぐらいであると教育のために、わざわざ横浜に家を借りて、子どものために出ていっちゃう人も多いです。地元の公立学校入れるよりも小学校から行けるような学校に行く例もありますので、中々難しい問題である、教育から見るとそういうことなのかなと思います。

それから、横須賀中央あたりのマンションに住んでもらって、行けばいいと思うのですが、京急も割と通勤時間が短いので、そうすると横浜とかに行ってしまうのかなと思います。答えになっているのかわかりませんが。

○質問者B氏 例えば、若い独身者を研究所の会社に空き家を買わせて、2～3年住むには良いと思うのですがどうでしょうか。まったく学校の話と関係ないのでもいいのかなと思うのですが。

○比護氏 そうですね。せっかく横須賀に来てくれているので、そういった働き方も今後やっていけたらと思うのですが、僕の立場でできるかは分かりません。そういった活動をしていけば、現に僕の住む山の家の



横の家は東京からわざわざ 20 代の子なのですが、借りて住んでいる人もいるのですが、そういった若い世代が逆に古い建物が良いという方もいると思うので、そういったところには提案して良ければすごく良いと思います。

○最勝寺氏 相当難しい問題で、私たちのような外者には答えはすぐに出ないのですが、過疎化しているところ、しょうがなく住んでいるのだという意見もありますが、そういった状況もあります。

それで、私たちが狙っているのは、例えば車が入らないからまずいよと言ったマイナスのところではなくて、プラスを見ていこうとしています。新しい価値観がそこで生まれないかと言う模索なのです。ですから、今までの延長上ではなくてまったく新しい世界がそこで構築されていかないと救われないなという気が私はしています。そういう意味で、若い学生さん達の意見がとても参考になったと思います。僕は、さっき言ったように自然と暮らしが一体化していることは本来理想的だと思います。それから、坂があるということも本来は理想的で、昔はそのあたりから住んでいて、平地が切られていた時代がありました。大昔ですよ。谷戸はジメジメして、田んぼになっていて、そのへりで住んでいたわけですね。そういうことを考えながら思いやると芸術家や音楽家、陶芸家が来たり、あるいは色々なIT関係の人が来るのも良いだろうし、自然と住むことが大事だと思う若い人達も多いです。一つの例ですけど、新しい価値観が生れなければダメだと私は思っています。答えにはなっていないで申し訳ないですが、そんな意味で話してきたように自分自身思っております。

景観フォーラムですから、景観について一言ずついただきたいと思いますので、太田さんからお願いします。

○太田氏 谷戸を歩いていて感じた事ですが、景観というのは私たち自身の記憶が作り出すものなのかなと思いました。どういう経験をして、そこでどんな思いをしてどんなことを感じたかという自分の思い出と共に景観というのはつくりだされるものなのかなと感じました。なので、道とか建物とかそういったものを綺麗に整えることも大事ですが、それと同時に今ある自然の中で、感情の動く瞬間をどう作りだせるかが大切なのではないかと思います。その場限りの景観で終わらずに記憶の中で生き続けるようなそういう景観があることによって、ふとした瞬間に思い出し、また行きたいなと思うのではないかと思います。

○最勝寺氏 ありがとうございます。もう一つ質問したいというパネルが出ましたので、質問者の方お願いします。

○質問者C氏 時間過ぎてしまったのにすみません。私は、品川区の鮫洲からまいりました。感想は、鮫洲や品川と比べれば、横須賀の方が安いと思います。鮫洲で借りたら7~8万以上はかかってしまうので、安く住めると推してお金で釣るしかないと思います。

太田さんに質問ですが、ゲストハウスの開業はいつごろを目指していますか。

○太田氏 質問ありがとうございます。ゲストハウスの話ですが、あくまでも私たちが考えたこういうのがあったらいいと思う案なので、どの時期を目指してといったところまで考えていなかったのですが、2年後の東京オリンピックまでにあればいいと思います。

○最勝寺氏 それでは、太田さんが考える景観の話で、「記憶の風景」、「原風景」についての話がありましたが、豊かな原風景があると生き方が変わるかもしれませんね。今、チープな風景が多くなってきているので、豊かな原風景を大切にしたいですね。

次は、大川さんお願いします。

○大川氏 太田さんが話したことに繋がってくると思いますが、単なる風景。美しいとか形としてある風景が景観ではなく、それぞれの地域の歴史を背負って生活文化の継続性も含め、人々の生きてきた、これから生きようとする繋がり自体が地域の景観だと思います。ですから、歴史と自然に寄り添った魅力ある生活の形を作っていけたらと思います。

○最勝寺氏 ありがとうございます。次に比護さんお願いします。

○比護氏 今日、都市景観フォーラムの中で、横須賀らしいまちづくりというテーマで自分の話をさせて頂きました。まちづくりというよりもあの場所を作ったことによって、色々な人と付き合いができて、それがイコールまちづくりになっているのではないかと自分は思っています。僕は、汐入でこの活動をしていますが、池上の阿部倉、住まいの方でも中学校のPTA会長とか色々やっていて、中学生向けの無料塾を仲間と一緒にやっています。色々な活動をして、そこで仲間がどんどんできます。まちづくりってよく人づくりと言いますが、まさにそこかなと思っています。横須賀のことを一生懸命考えて、地域をよくしたいと思う仲間がたくさんいれば、横須賀の人口が減っても良い仲間がいれば良い街になると思って、信じてこれからも活動をしていければと思っています。

○最勝寺氏 私の方から景観とは何かと話をさせて頂きます。今、景観フォーラムでいろいろお話をしました。その中で、景観とは景色ではないです。綺麗とか汚いとかの話だけではないです。それも大事ですよ。景色ではないということを認識してください。

私は最初に風の動きや水の動きが景観だと話をしました。谷戸根性や井戸の作法も景観です。蝶々の舞う道も景観です。蜘蛛の巣がある風の道も景観です。昔話も景観です。先ほど言った記憶の風景も景観です。

景観とは、そういった大きなものです。言わば、一本の木を見るのではなくて、生態系みたいに森があって、大きな木があって、小さな木があって、草があって、海がある。そういった全体のトータルのものだと思います。そこの幅を広げていくとどういうことが起こるかと言うと、谷戸だったら谷戸の新しい価値観が生まれると思います。そして、初めて生まれると思います。そして、新しい人が入ってくるのではないかと思います。その中で空き家がなくなったりするのではないかと思います。ですから、景観の見直しというのはもっと幅広く考えなくてはいけないと思います。

みなさんの意見をまとめたわけなのですが、私の締めはこのぐらいで終わらせていただきたいと思っています。

これで、景観フォーラムを終わらせていただきます。誠に長い間、ありがとうございました。

## よこすか都市景観協議会

### 【会員】9団体

- 一般社団法人 神奈川県建築士会横須賀支部
- 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会横須賀支部
- ミーズ設計連合協同組合
- 公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会横須賀三浦支部
- 公益社団法人 全日本不動産協会神奈川県本部横須賀支部
- 横須賀建設業関連団体協議会
  - ・一般社団法人 横須賀建設業協会
  - ・横須賀建工同志会協同組合
  - ・一般社団法人 横須賀三浦建設協会
  - ・横須賀電気工事協同組合
  - ・横須賀管工事協同組合
  - ・横須賀緑化造園協同組合
  - ・横須賀三浦塗装工業協同組合
  - ・横須賀内装事業協同組合
  - ・測新会
- 公益社団法人 横須賀青年会議所
- 横須賀商工会議所
- 横須賀市

### 【オブザーバー会員】3団体

- 神奈川県横須賀土木事務所
- 東京ガス株式会社横浜支店
- 東京電力パワーグリッド株式会社藤沢支社

[順不同]

### <事務局>

横須賀市都市部まちなみ景観課  
〒238-8550 横須賀市小川町 11番地  
TEL:046-822-8377 FAX:046-826-0420